

平成 27 年度

年 次 報 告 書

分冊：教員の年間活動報告

神 戸 常 盤 大 学

神戸常盤大学短期大学部

目次

	頁数
1. 保健科学部・医療検査学科	3～29
2. 保健科学部・看護学科	30～69
3. 教育学部・こども教育学科	70～94
4. 短期大学部・口腔保健学科	95～113
5. 短期大学部・看護学科通信制課程	114～123

1. 保健科学部 医療検査学科

教員名	松田 正文	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	副学長 健康保健センター長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	臨床検査学Ⅰ、生理機能検査学ⅠA・ⅠB・ⅡB、 生理機能検査学実習Ⅱ、生理機能検査学演習、臨床病態学Ⅰ・Ⅱ、 臨床病態学演習Ⅰ・Ⅱ、総合医学検査演習、医療安全、学校保健				
担当科目コマ数	11.8				
本年度の課題					
教育：心電図解析力の充実 研究：動脈硬化の早期診断、動脈硬化促進因子の解明					
本年度の目標・方針					
教育：不整脈の原因を詳細に解説し、単なる心電図読解にしない。 研究：呼吸機能と各種動脈硬化指標および心血管系事故との関連を解析する（透析患者）。					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容					
教育 不整脈の原因解説に重点を置いた授業を行った。					
研究 過去3年の呼吸機能と動脈硬化関連データ、心血管系事故との関係を追った。 目標達成度の評価：1. できた 2. <u>ほぼできた</u> 3. あまりできなかった 4. できなかった					
b. 教員としての主な活動内容					
・教育活動 不整脈の原因解説のために心臓の電気生理学の話が多くなった。これに対する学生の反応は、良いものと悪いものがほぼ2：1であった。					
・研究活動 透析患者で副甲状腺機能、Ca・P関連薬剤、透析条件など多くの因子を解析することになった。極めて複雑に絡み合っており、解析に苦労している。					
専門領域：透析医療					
本年度の研究業績： 学会発表（ 2 回） 論文（ 1 ）					
・社会的活動等 社会福祉法人和光会理事					
次年度の課題					
不整脈と病態との関連を明確にして講義する 透析における Ca・P コントロールと心血管系事故との関連を精査する					

教員名	坂本秀生	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	医療検査学科長、ゲノムサイエンス研究ユニット責任者、国試対策委員長				
クラス担任	M科4年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	M科:臨床検査入門、医学総論、検査機器総論、分子細胞生物学、医療英語、検査管理総論、臨床検査学II、文献講読、遺伝子工学、卒業研究、先進医学検査学、国際保健医療活動I、国際保健医療活動II、チーム医療と臨床検査、N科:自然と環境III(分子生物学)、国際保健医療活動I、国際保健医療活動II、O科:遺伝子と再生医療				
担当科目コマ数	8.6				
本年度の課題					
時間配分を考慮した活動					
本年度の目標・方針	学科運営を潤滑に行う。学生個々にあった指導を心がける。				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>学科長としてこれまでの業務に加えて学科運営も行うようになり、時間配分がますます重要となった。</p> <p>教育、研究、社会活動いずれも重要であるが、特に国家試験対策委員長として、臨床検査技師国家試験の合格率を上げるため、成績不振者の学習会を学科長室で開催した。その他、少人数の会議も学科長室で行うなどし、限られた時間を有効に使うように心がけた。目標達成度の評価：1.できた ②.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 4年生は前期より国試模擬試験で成績不振の者を集めて補習を行う、後期には成績が伸び悩む学生に対する個別相談も実施し、全国新卒者と同等な国家試験合格率の87.5%とすることが出来た。 ・研究活動 <p>研究テーマ：Cablesの機能解明、ポイントオブケアテストングを効果的に用いる具体策の研究 研究テーマの現状：「Cablesの機能解明に関する研究」は科研費の基盤研究Cにて、3年継続で採択され、研究が進行中である。「ポイントオブケアテストングを効果的に用いる具体策の研究」については、私立大学戦略的研究基盤形成に採択された「災害対応を組み込んだ機動的サポートシステム(神戸常盤モデル)の構築」の3年目の最終年として成果をまとめた。</p> <p>専門領域：</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>○科研・○その他の外部資金(私立大学戦略的研究基盤形成支援事業)</p> <p><研究テーマ：Cablesが誘導する新たなアポトーシス機構、災害対応を組み込んだ機動的サポートシステム(神戸常盤モデル)の構築></p> <p>学会発表(5回) 学術論文(6編)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的活動等 <p>日本臨床検査学教育協議会 副理事長、アメリカ臨床病理学会 国際資格 日本諮問委員</p>				

会 委員長、国際臨床化学会 C-IeL 委員、日本臨床検査医学会 評議員、日本臨床検査自動化学会 評議員 POC 技術委員会 幹事、日本臨床化学会 評議員 国際交流委員会 委員長、日本臨床衛生検査技師会 国際 WG 委員、世界医学検査(IFBLS)学会実行委員、兵庫県臨床検査技師会 理事
次年度の課題
学生の可能性を伸ばす。学科運営の円滑化。第11回日本臨床検査学教育学会学術集会を含めた実行委員を務める学会の成功。

教員名	野村秀明	所属学科	教育イノベーション機構 (医療検査科)	職名	教授
委嘱委員・職務	国際交流センター (センター長)、健康保健センター (健康管理室)				
クラス担任		クラブ顧問	剣道部、常盤国際交流会		
担当科目名	臨床病態学I, II、臨床病態学演習I, II、先進医学検査学、栄養代謝学、栄養学、チーム医療論、チーム医療と臨床検査、予防医学概論、看護解剖生理学I、人体のふしぎ、医学概論、医療と文化、卒業研究、キャリア基礎				
担当科目コマ数	11.5				
本年度の課題					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育では、医療系科目では、臨床に直結した内容や未来医療への展望を織り交ぜた講義を展開する。基礎科目 (解剖生理学や栄養学、栄養代謝学) においても、実際の病気に結びついた知識を提供し、実践的な講義を展開する。キャリア系科目では、将来社会に出てから役立つ人間としての基幹教養の習得を目指す。 2. 研究では、関連病院における臨床研究基盤と、栄養・運動を含めた予防医学研究の基礎を確立する。 					
本年度の目標・方針					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床における画像写真や手術手技のDVD、チーム医療の実際や予防医学における疫学データを紹介して、興味ある講義に努める。また、基礎医学においても、疾患や治療に直結した知識を提供することに努める。キャリア基礎の知識をグループ学習の中で習得させる。 2. 臨床栄養学、予防医学に関する栄養学・運動に関する研究を進める。 					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>ビジュアル (DVDや臨床画像) を取り入れた講義内容や、アクティブラーニング (AL) による主体的学習法の採用を行った。卒業研究では、臨床栄養や運動をテーマにした予防医学的な研究を指導した。キャリア基礎ではいのちをテーマに能動学修を行った。</p> <p>目標達成度の評価: 1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p>					

b. 教員としての主な活動内容

・教育活動

医療検査学科は、おもに3、4年生を中心に、臨床科目を担当。4年生には、卒業研究の指導を行った。看護学科は、1年生に、基礎科目（解剖生理学III）を担当した。教育学部では、人体のふしぎ（肝臓と胃）を担当した。キャリア基礎では「いのちと健康」に関する授業を中心に担当し、グループ学習を行った。

・研究活動

研究テーマ：消化器疾患、代謝栄養学、消化管と免疫機構、腸内細菌、スポーツ栄養学、高齢者在宅医療、国際医療活動、主体的学修法（ハイ・インパクト・プラクティス）

研究テーマの現状：

1. 関連病院（ときわ病院との共同で、高齢者医療、消化器疾患（肝硬変、急性・慢性膵炎、炎症性腸疾患）と栄養状態、および消化器外科周術期の代謝栄養変動に関する研究を行っている。
2. 経腸栄養におけるベッドサイドでの免疫能の改善効果について研究を開始している。
3. 課題解決型の主体的な学びについての研究を行っている。

専門領域：外科、消化器科、救急医療、代謝栄養学、国際医療ボランティア、教育法

本年度の研究業績：

テーマ別研究「ネパールにおける栄養・健康調査」

その他の外部資金（JICAプロジェクト）

<研究テーマ：開発途上国における栄養、保健学的問題>

学会発表（2回） 学術論文（2編） 著書（0冊）

・社会的活動等

JICA草の根プロジェクト「ネパールにおける安全な水の供給」活動参加

「国境なき医師団」支援活動

大阪救急医学連絡協議会理事

救急救命士養成講座 講師活動

日本外科代謝栄養学会評議員、

日本静脈経腸栄養学会評議員

次年度の課題

- ・本学における臨床研究の確立
- ・社会医学的研究の端緒と発展
- ・公開可能な科目名：外科代謝栄養、臨床栄養、食と医療、食と予防医学、栄養サポートチーム、国際医療活動、スポーツ医学など

教員名	岩井 重寿	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	危機管理（災害）委員会・委員長、個人情報保護委員会・副委員長、ライフサイエンス研究センター 細胞病理研究ユニット・責任者、M科臨地実習委員会・委員長、細胞検査士養成課程委員会・委員長				
クラス担任	2年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	臨床病理検査学、臨床病理検査学実習Ⅰ、組織学・同実習、臨床検査入門、総合医学検査特論、総合医学検査演習、細胞検査学基礎演習Ⅲ、卒業研究、細胞検査学特論Ⅰ、細胞検査学特論Ⅱ				
担当科目コマ数	8.7				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育効果のさらなる向上 ・研究時間の確保と推進 					
本年度の目標・方針					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の効率的・効果的展開を目指す。 2. 研究活動の活性化を図る。 					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 通常授業では学生参加型の形式や画像取り込みによる検討機会の導入 2. 国家試験対策に向けての問題解析 3. 細胞検査士養成課程の授業と運用（委員長） 4. 学会出席による教育に反映可能な知見等の修得 <p>目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度の国家試験問題の確認により教授内容はほとんどを網羅できた。 2. 臨地実習委員としての学生指導と運用を務めた。 3. 900時間以上にわたる細胞検査士養成教育で最も高い合格率に導いた。 ・研究活動 <p>研究テーマの本質的活動は停滞している。</p> <p>研究テーマ：1) 悪性腫瘍診断に向けての反応性中皮細胞の形態と性状、2) 漿膜の創傷・治癒過程における中皮前駆細胞の実験的解明</p> <p>研究テーマの現状：1) 悪性腫瘍診断に向けての反応性中皮細胞の形態と性状、2) 漿膜の創傷・治癒過程における前駆細胞の実験的解明</p> <p>専門領域：細胞診断学、組織細胞化学、病理学</p> ・社会的活動等 <p>第70回細胞検査士教育セミナー実施委員（神戸）</p>					
次年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育効果のさらなる向上 ・研究データのまとめ 					

教員名	井本 しおん	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	自己点検・評価委員長、M科就職委員長、健康保健センター・健康管理室責任者、遺伝子組換え実験安全委員会委員、LSC委員				
クラス担任	M2	クラブ顧問	イムノヘマトロジー		
担当科目名	科目責任者：血液学, 血液検査学, 血液検査学実習I, 血液検査学実習II 臨床病態学II, 人体のふしぎ (E科) オムニバス：臨床検査学I、臨床病態学I、臨床病態学演習I、臨床病態学演習II、総合医学検査特論、総合医学検査演習、卒業研究				
担当科目コマ数	12.9				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・研究時間の確保 ・血液検査学における学生の形態診断能力を高める 					
本年度の目標・方針					
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究を進展させ、学会発表、論文化をめざす ・M2前期から血液形態観察に馴染ませる ・就職委員長の職務遂行 					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の成果を5月に日本輸血・細胞治療学会、11月に日本臨床検査医学会で発表した。 ・M2血液学、血液検査学で繰り返し血液細胞ノートでの形態確認を促した。 ・就職ガイダンス、模擬面接等可能な限り対応し例年と同様の就職内定率を得た。 <p>目標達成度の評価：1.できた②.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>教育活動：わからない学生を減らすべく重要ポイントの説明に力を入れた。</p> <p>委員会活動：就職委員会では、ガイダンスや面接などで多大な時間が必要であった。</p> <p>研究活動：</p> <p>研究テーマ：単球・マクロファージの機能に影響を及ぼす因子の検討</p> <p>研究テーマの現状：鉄、ヘミンによるROS産生、細胞死誘導について検討を進めている</p> <p>専門領域：臨床血液学、輸血・細胞治療学</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>学会発表（2回） 学術論文（編） 著書（冊）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的活動等 <p>兵庫県献血推進協議会委員、兵庫県合同輸血療法委員会委員、日本輸血・細胞治療学会I&Aインスペクター、兵庫さい帯血バンク倫理委員など</p>					
次年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果の論文化、研究時間の確保 					

教員名	枋倉 匡文	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	広報委員				
クラス担任	1年 Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	医療検査学科：公衆衛生学I・II、公衆衛生学実習、医療統計学、労働衛生学I、総合医学検査特論、総合医学検査演習、先進医学検査学 看護学科：疫学的調査法、保健統計学、公衆衛生学 看護学科 通信制課程：病原微生物学・免疫学				
担当科目コマ数	7.8				
本年度の課題					
①授業内容の充実 ②研究時間の確保					
本年度の目標・方針					
①受講生の目線に立った分かりやすい授業になるように心がける。 ②従来の研究を発展させる。					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容 ①最新の事例を積極的に講義に取り入れ、授業に対する学生のモチベーションを上げるように努めた。 ②研究時間を全く確保できなかった。 目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた <input checked="" type="checkbox"/> 3.あまりできなかった 4.できなかった					
b. 教員としての主な活動内容 ・教育活動 授業アンケート結果を真摯に受けとめ、できるだけ多くの受講生の意見を授業に反映させるようにした。 ・研究活動 研究テーマ：CXCR4を標的としたネコ免疫不全ウイルスのワクチン開発 研究テーマの現状：研究時間を確保できなかった。 専門領域：免疫系感染症学 本年度の研究業績：なし テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ） <研究テーマ： > 学会発表（ 0回） 学術論文（ 0編） 著書（ 0冊） ・社会的活動等 <非常勤講師>京都大学薬学部（細菌学講義[3回生対象]） <査読>神戸常盤大学紀要 1件					
次年度の課題					
研究活動の再開					

教員名	松元 英理子	所属学科	教育イノベーション機構 医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	自己点検・評価委員（副委員長）、入試広報委員、IR室				
クラス担任	なし	クラブ顧問	水泳同好会		
担当科目名	基礎生物、生物学、キャリア基礎、キャリア入門、臨床検査入門、分子生物学、遺伝子・染色体検査学ⅠⅡ、遺伝子・染色体検査学実習、医療英語、卒業研究、総合医学検査学特論、総合医学検査学演習				
担当科目コマ数	9.7				
本年度の課題					
① 担当科目において、学生の「自主的な学習時間」を増やす方法を検討する。 ② 研究を進展させる。					
本年度の目標・方針					
① 教育：担当科目でのグループワークを増やし、学生の自主的学修を誘導する。 ② 白血病細胞分化誘導時の細胞周期関連因子の局在変化について明確なデータを得る。					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容					
①昨年度の2科目に加え「生物学」でもグループワークを取り入れた。「1分でわかる〇〇」として生物学で学んだ内容をA4用紙1枚にまとめ、これをグループ内で1分間で説明し合った。					
③ 蛍光免疫染色の方法や使用する白血病細胞を変更して検討を重ねた。					
目標達成度の評価：1. できた (2.) ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
b. 教員としての主な活動内容					
・教育活動：①担当授業でのグループワークの回数を増やした。②「遺伝子・染色体検査学実習」の項目を変更し、遺伝子検査の主要分野を網羅した実習内容とした。③「キャリア基礎」後半ゼミでディベート大会を実施した。					
・研究活動					
研究テーマ：白血病細胞の分化およびアポトーシス誘導のメカニズムに関する研究					
研究テーマの現状：分化誘導時のcyclin D1, p21タンパクの細胞内局在変化を証明するため、蛍光免疫染色の条件や使用細胞を変更して実験を継続したが、いまだ明確な結論を得るには至っていない。					
専門領域：細胞生物学					
本年度の研究業績：					
テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）					
<研究テーマ： >					
学会発表（ 回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）					
・社会的活動等					
次年度の課題					
① 次のカリキュラム改正に向けて、学生の自主的学修を引き出す授業案を検討する。 ② 研究を進展させる。					

教員名	澤田 浩秀	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	研究倫理委員長、遺伝子組換え実験安全委員長、KTU大学研究開発センター委員、M科卒業研究委員長、M科細胞検査士養成課程委員、ライフサイエンス研究センター委員				
クラス担任	医療検査学科 1 学年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	医療検査学科：生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生理機能検査学ⅡA、生理機能検査学ⅡB、環境生理学、労働衛生学Ⅰ、文献購読、医療英語、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習 看護学科：臨床検査総論、医療機器総論 口腔保健学科：臨床検査学、こども教育学科：人体のふしぎ				
担当科目コマ数	9.6				
本年度の課題					
1. 研究活動の充実化、2. 外部研究資金の獲得、3. 臨床検査技師としての認知症予防対策および認知症検診への参加					
本年度の目標・方針					
研究面において、本年度獲得したテーマ別研究費課題である“腸管免疫賦活によるパーキンソン病予防の研究”の研究を実行する。また、「臨床検査技師としての認知症予防対策および認知症検診への参加」の課題としての研究およびその対策を実行する。科学研究費など外部研究資金の獲得に向けて取り組む。					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容					
1. 当面の研究課題である“腸管免疫賦活によるパーキンソン病予防の研究”に関して、本学に動物実験施設を立ち上げるまでの実験施設として、共同研究先である国立長寿医療研究センター実験動物管理室の客員研究員として登録され、同施設において平成25年度より動物実験を実施した。動物実験についてはほぼ満足できる実施状況であった。					
2. 科学研究費など外部研究資金の獲得には至らなかった。					
3. 臨床検査技師としての認知症予防対策および認知症検診への参加については、介護施設「うみのほし大久保」および認定NPO法人「認知症予防ネット神戸」との共同研究により、近赤外光分析法（NIRS）を用いた脳内酸素化ヘモグロビン測定による認知症予防への評価の研究を実施した。					
目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
b. 教員としての主な活動内容					
・教育活動					
どの科目においても、図表の説明を中心に、特に視覚から理解できるような授業を行った。各科目とも、穴埋め箇所に必要な点を書き込んでいくプリントを配布し、これに沿って授業を行った。授業評価（授業の満足度）に関しては、生理学Ⅰが4.2、生理学Ⅱが4.1、生理機能検査学ⅡAが3.6（いずれも医療検査学科）であった。評価されなかった点として、授業の聞きやすさ、授業の進行速度、板書やスライドなどの適切性、学生の質問や意見への対応性であった。今後も、できるだけゆっくり話すこと、授業内容をわかりや					

教員名	鈴木高史	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	国際交流センター委員 図書紀要委員				
クラス担任	3年生（学年責任者）	クラブ顧問	なし		
担当科目名	免疫学、免疫検査学Ⅰ、免疫検査学実習、先進医学検査学、文献講読、総合医学検査特論、総合医学検査演習、臨床検査学入門、労働衛生学				
担当科目コマ数	9.7				
本年度の課題					
着任初年度であるので、各種状況を見極めながら適切にエフォートを振り分けて、教育・研究活動の推進を目指す。					
本年度の目標・方針					
免疫（検査）学関連講義の組み立て 論文発表を目指した研究活動の開始					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容 教育では、学生の理解力を随時把握しながら、講義を行った。研究では、遂行できる（すべき）研究テーマの選択を行った。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
b. 教員としての主な活動内容					
・教育活動 着任初年度であったため、免疫（検査）学関連講義の新たな組み立てを行い、授業用の資料作成を行った。 大学コンソーシアムひょうご：学生派遣プログラム・ネパールコースに帯同した。					
・研究活動 研究テーマ：熱帯疾患の新規コントロールツールの開発 研究テーマの現状：アフリカ睡眠病病因原虫やマラリアの媒介蚊の遺伝子解析、遺伝子操作を通じての解析。着任初年度であり、培養などのセットアップに苦労した。タンパク質発現、精製システムのセットアップを完了した。 専門領域：感染制御学・分子細胞生物学・分子疫学・熱帯医学					
本年度の研究業績：					
テーマ別研究・ジョイント研究・ 科研 ・その他の外部資金（ ） ＜研究テーマ：熱帯疾患の新規コントロールツールの開発＞ 学会発表（ 2 回） 学術論文（ 3 編） 著書（ 冊）					
・社会的活動等					
次年度の課題					
研究の推進と論文発表。 学習進度が異なる学生への効果的な教育方法の探索。					

教員名	栗岡 誠司	所属学科	教育イノベーション機 構、医療検査学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	高大連携委員長 入試広報委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	弓道 サイエンスボランティア 水泳		
担当科目名	基礎化学、有機化学、検査学入門実習、無機化学、分析化学実習、 自然と環境 I、基礎セミナー				
担当科目コマ数	10.0				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウド型教育支援システム manaba を使った学修支援活動の実践 ・高大連携事業の精選 				
本年度の目標・方針	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎化学から、有機化学および無機化学へと連携を深め、化学好きの学生を増やす。 ・サイエンスボランティアへの学生の参加を促し、学生の社会貢献を図り、コミュニケーション能力を育成する。 				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動：初年次教育の充実 ・研究活動：①クラウド型教育支援システムの有効利用について ②大学入試から国家試験までの学生の成績推移の分析・検証 <p>研究テーマ：クラウド型教育支援システムmanabaの可能性の検証</p> <p>研究テーマの現状：1年生と卒論生対象に検証中</p> <p>専門領域：化学教育、STS教育、サイエンスコミュニケーション、</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）</p> <p><研究テーマ： ></p> <p>学会発表（ 1 回；ベストプレゼン賞） 学術論文（ 2 編） 著書（ 冊）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的活動等 ① 文科省・JSTよりの委嘱にてSSH課題研究発表会全国大会での審査員 ② 独立行政法人青少年教育振興機構ゆめ基金の支援を受け、サイエンス教室を実施 ③ 県外では、福井県、鳥取県、静岡県にて中高校生対象のサイエンス教室講師 ④ 県内では県立高校および明石・小野・宍粟・川西・高砂・加古川・姫路市などにて小中学生対象の特別授業、長田区内児童館にて理科遊び教室を実施。 				
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウド型教員支援システムmanabaaの活用方法の充実 ・キャリアー基礎、卒業研究、化学の授業（基礎化学・有機化学・無機化学・分析化学実習）を通じての能動的学修が行える学生の育成 				

教員名	柳田潤一郎	所属学科	医療検査学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	学生委員会、国際交流センター、学生相談室				
クラス担任	2年Bクラス	クラブ顧問	体育会代表		
担当科目名	微生物学、病原微生物検査学実習、卒業研究				
担当科目コマ数	13.8				
本年度の課題					
講義科目では、ヒトと微生物の関わりと色々な微生物の特徴を理解する。 実習科目では、代表的な病原微生物の分離・同定法を習得する。					
本年度の目標・方針					
講義では、微生物学の基本的事項を解説し、理解させる。 実習では、微生物の取り扱い方法を習得させる					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容 講義では、新聞・雑誌等からも話題を取り上げ、教科書と共に解説した。 実習では、培地試薬の調製、顕微鏡観察および微生物の分離・同定法を行った 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
b. 教員としての主な活動内容					
・教育活動 講義では、身近な話題から教科書へ導入し、また学生の自主的な学習も取り入れた。 実習では、ヒトの感染症の原因となる代表的な微生物について、基本操作、培地試薬の調製、標本の顕微鏡観察、分離同定法など実際に取り扱うことにより、教科書で学んだ知識の理解が深まるように努めた。 大学コンソーシアムひょうご：学生派遣プログラム・ネパールコースを帯同した。					
・研究活動 研究テーマ：ネパールにおける感染症の研究 研究テーマの現状：ネパールにて、住民健康調査、検便、水質検査等の調査を継続中。 専門領域：微生物学、食品衛生学 本年度の研究業績： ＜研究テーマ： JICA草の根技術協力事業－安全な水の供給促進－＞ 学会発表（ 2 回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）					
・社会的活動等 独立行政法人国際協力機構(JICA)草の根技術協力事業（ネパール・カースキ郡ディタール村の生活改善－安全な水の供給推進－）に参加(6月まで)					
次年度の課題					
講義・実習科目では、学生により興味を持ってもらうための工夫をする。 卒業研究では、自主的な実験や積極的なディスカッションができることをめざす。 研究活動では、ネパールでのフィールドワークを継続する。					

教員名	布引 治	所属学科	医療検査学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	FD委員会委員、国試対策委員会委員、細胞検査士委員会委員、LS研究センター細胞病理委員会				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問	病理部		
担当科目名	検査学入門実習、臨床病理検査学実習Ⅰ、病理検査学実習Ⅱ、組織学・同実習、細胞検査基礎演習Ⅳ、細胞検査学特論Ⅰ、細胞検査学特論Ⅱ、医学検査特論 卒業研究 総合医学検査特論				
担当科目コマ数	11.2				
本年度の課題					
本学における研究環境の構築。効果的な細胞検査士養成教育。					
本年度の目標・方針					
細胞検査士試験合格率アップ					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>教材の充実。授業内容の改良。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>前年の課題として細胞検査士教育における電子教材導入を目標とした。学生各々にタブレット端末を与え、顕微鏡撮影写真を繰り返し学習できるよう指導した。結果として細胞検査士試験合格率が上がった。</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>・教育活動</p> <p>細胞検査士を目指す学生のための教育内容の充実。理解しやすい教科書作り。これらについてはほぼ達成した。</p> <p>・研究活動</p> <p>研究テーマ：遺伝子多型 Genetic polymorphismの解析</p> <p>研究テーマの現状：</p> <p>遺伝子多型 Genetic polymorphism の解析：腫瘍病変における ALDH1 を中心に検討、細胞診材料から得られた HPV-DNA と遺伝子多型の関連性について研究中。ALDH1 と癌との相関について目標通りほぼ達成。</p> <p>専門領域：</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>論文</p> <p>1. ALDH2 polymorphism for the risk of cervical carcinogenesis. Hum Cell Published online: 03 February 2016</p> <p>発表</p> <p>1. MDM2 SNP309 and human papillomavirus infection in cervical carcinogenesis, 2015, 39th European Congress of Cytology</p> <p>テーマ別研究</p>					

<p>＜研究テーマ：飲酒と遺伝的多型解析について＞</p> <p>学会発表（ 1回） 学術論文（ 1編） 著書（ 0冊）</p> <p>・社会的活動等</p> <p>日本臨床細胞学会評議員、細胞検査士委員会委員、施設認定制度委員会幹事</p> <p>日本臨床細胞学会近畿連合会理事、 兵庫臨床細胞学会理事</p> <p>日本デジタルパソロジー研究会幹事、兵庫県細胞検査士会 理事</p> <p>医療関連サービスマーク制度調査指導員（（財）医療関連サービス振興会）</p>
<p>次年度の課題</p>
<p>細胞検査士試験対策としての教材の充実。細胞検査士試験合格率さらにアップ。</p>

教員名	酒井健雄	所属学科	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	臨地実習委員会 副委員長				
クラス担任	2年Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	基礎検査学1、基礎検査学2、基礎検査学実習、保健医療福祉総論 特論、リスクマネジメント、分析化学実習、検査入門実習、検査学入門 臨床検査学（口腔保健学科）人体の不思議（教育学科）看護通信課程化 学				
担当科目コマ数	10.5				
本年度の課題	臨床検査技師制度の歴史的考察				
本年度の目標・方針	臨床検査技師制度の背景を知り、これからの臨床検査のあり方の参考にする。				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>2015年6月6日 日本臨床検査学教育協議会 近畿・中国・四国部会 高知学園短期大学にて講演 「法改正とこれからの臨床検査」</p> <p>目標達成度の評価： 2. ほぼできた</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 ・研究活動 <p>研究テーマ：臨床検査技師の歴史的考察</p> <p>研究テーマの現状：</p> <p>専門領域：</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）</p> <p>＜研究テーマ： ></p> <p>学会発表（ 1回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）</p>				

<ul style="list-style-type: none"> 社会的活動等 公益社団法人兵庫県臨床検査技師会 功労賞・学術奨励賞選考委員

教員名	杉山 育代	所属学科	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員・臨地実習委員				
クラス担任	3年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	生理学実習、生理機能検査学実習Ⅰ、生理機能検査学実習Ⅱ 画像検査学、生理機能検査学演習、卒業研究、特論、検査リスクマネジメント、E科人体のふしぎ				
担当科目コマ数	13.2				
本年度の課題	教育面では、学生が考えることの大切さと面白さを実感すること 研究に関しては、研究時間の確保。				
本年度の目標・方針	学生が実習前準備を自ら行うようにさせる。				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習書に学生記入欄を多くすることで、学生は実習前に実習書を熟読し実習前学習が出来るようになってきた。 <p>目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育活動 生理機能検査学演習では、1症例の心電図、心音図、心エコー、レントゲン写真を提示して、検査の横のつながりを持って考える力を育んだ。 生理機能検査学実習Ⅱでは、実際の臨床現場を想定したエコー検査時の臨床検査技師が考えて行っていく検査を再現する実習を行った。 研究活動 研究テーマ：生活習慣と動脈硬化・脳血流などの関連性 認知症検診における近赤外光分析法を用いた脳内酸素化ヘモグロビン変化測定の有用性の検討 研究テーマの現状：研究中 専門領域：超音波検査 生理機能検査 本年度の研究業績： テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ） <研究テーマ： > 学会発表（ 回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊） 社会的活動等 				

教員名	高松邦彦	所属学科	教育イノベーション機構 医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	ICT委員、学生委員会委員、KTU委員、ライフサイエンスセンター員、ボランティアセンター委員、				
クラス担任	なし	クラブ顧問	硬式テニス		
担当科目名	基礎数学(M)、数学(M)、基礎統計学(MN)、遺伝学(M)、プレゼンテーション技法(MNOE)、文献購読(M)、卒業研究、キャリア教育				
担当科目コマ数	8.4				
本年度の課題					
知のつながりを学ぶ					
本年度の目標・方針					
医療検査学科の教員、イノベーション機構の教員として、きちっと役割を果たすことを目標とした。					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>時間をかけて事前準備行い、授業外においても、希望者を募って指導等を行った。 目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <p>すべての授業で、毎回コメントをもらうことで授業改善をした。希望者に対して、課外指導を行ったことは、高評価だった。来年度移行も続けて行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動 <p>研究テーマ：教職協働 専門領域：ゲノム 本年度の研究業績： テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他(外部資金 (JR西日本財団) <研究テーマ： AED講習 > 学会発表 (3 回) 学術論文 (2 編) 著書 (冊)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第22回 大学教育研究フォーラム 教職協働の意義 ～「知」の観点から～ ●第4回神戸常盤大学学術フォーラム 全学FDを実現する「動的カリキュラムマップ」の構築 ●教職協働による新たな知の創造～セレンディピティの可能性を高めるための工夫～神戸常盤大学紀要 ●知のネットワーク成長モデル 神戸常盤大学紀要 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的活動等 <p>AED講習会を、講師として行った。</p>					
次年度の課題					

少人数制の授業形態においては、毎回授業のまとめを作成させ、学生に学ぶ方法を学んでもらう。

教員名	北野 悦子	所属学科	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	就職委員、ハラスメント防止対策委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	茶道部		
担当科目名	免疫検査学実習、輸血・移植検査学実習				
担当科目コマ数	9.0				
本年度の課題					
学生自ら実習の発表をできる環境を整えたが、ますますのディスカッション力、表現力をつけさせること。実習を通して文章作成能力を向上させること。					
本年度の目標・方針					
実習においては、自発的に、また、進んで発表できる学生を育てる。 臨地実習や就職試験でも役立つよう、文章力を身に付けさせる。					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容 「免疫実習」では、レポートの発表の時間を作り、また、「輸血実習」では、項目ごとに実習中に結果を班交替で発表して、プレゼンテーションの場を作った。 目標達成度の評価：1.できた ② ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった					
b. 教員としての主な活動内容					
・教育活動 各実習とも、自主的に考えるように、各自のレポートの添削には、なるべく丁寧な解説を付けるよう努力し、学生同士のディスカッションに役立つようにした。 レポートの添削でより論理的な文章展開ができるよう指導した。					
・研究活動					
研究テーマ：①「異常補体を示す症例の解析」、 ②「唾液中の補体成分存在について-唾液中の補体成分測定を試み-」、 ③「EDTA 血漿で測定することによる補体価へのEDTA の影響について」					
研究テーマの現状：① 例年に続いて継続中、一部「C2欠損症」については学会で発表 ②③ 継続中					
専門領域：補体、液性免疫、免疫検査学、輸血検査学、遺伝子検査学					
本年度の研究業績：					
テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ） <研究テーマ： >					
学会発表（ 1 回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）					
・社会的活動等					
次年度の課題					
実習においては、学生が自ら準備し、結果を出せる形態を作りたい。					

教員名	今西 麻樹子	所属学科	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	教務委員会、自己点検・評価委員会				
クラス担任		クラブ顧問	バトミントン部(副顧問) 弓道同好会(副顧問)		
担当科目名	生理学実習・生理機能検査学実習Ⅰ・Ⅱ、医療コミュニケーション演習				
担当科目コマ数	10.0				
本年度の課題					
①教育活動：実習項目に関するわかりやすい資料・見やすいスライド作成					
②研究活動：新規導入された検査機器を利用した新たな研究テーマの策定					
本年度の目標・方針					
①学生に内容を理解して実習を行ってもらおう					
②研究テーマ策定のための文献検索					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容					
①超音波検査の実習において、プローブ手技によりどこの臓器が映し出されているのかをイメージしやすくなるよう、解剖図や超音波写真を引用・改変してスライドを作成。					
②新規導入された検査機器を用いた研究論文を検索。					
目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
b. 教員としての主な活動内容					
・教育活動					
①実習項目に関連した問題を配付・解説 ②画像・イラストを盛り込んだスライド作成 サポート担当学生への声かけ					
・研究活動					
研究テーマ：①ホルター心電図による自律神経機能の評価、②認知症検診における近赤外光分析法を用いた脳内酸素化ヘモグロビン変化測定の有用性の検討					
研究テーマの現状：①追加データの収集・まとめ、②データ収集中					
専門領域：生理機能検査、病態検査					
本年度の研究業績：					
テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）					
学会発表（ 回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）					
・社会的活動等					
社団法人兵庫県臨床検査技師会 学術部管理運営研究班班員 兵庫県精度管理専門委員会委員					
次年度の課題					
教育活動：現在受け持っている実習項目以外の検査項目について指導できるよう準備					
研究活動：新たな研究テーマの策定と研究時間の確保					

教員名	澁谷 雪子	所属学科	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	就職委員会（副委員長）、地域交流センター委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	バドミントン部（顧問） フットサル部（副顧問）		
担当科目名	生化学実習、生化学検査学実習				
担当科目コマ数	9.0				
本年度の課題					
教育活動において、引き続き学生の自主性、考える力、伝える力を高めるよう努める。 研究活動において、研究中のテーマを進めるよう努める。					
本年度の目標・方針					
教育活動：学生実習、就職支援、地域交流に力を注ぐ。 研究活動：研究中のテーマについて検討する。					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容 <p>学生実習では、学生による発表を取り入れた。就職支援では、2年次ガイダンスを設け、早いうちからマナー・社会人に必要なことを考えさせた。地域交流では、学生が主体となり考えるよう努めた。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた ② ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p>					
b. 教員としての主な活動内容					
・教育活動 <p>実習以外に卒業研究の実験に協力した。国試対策では生化学検査学のまとめプリントの作成、配布を行い、補習を行った。</p>					
・研究活動 <p>研究テーマ：唾液の臨床検査について 研究テーマの現状：唾液の臨床検査試料としての有用性についての研究を進めた。主に唾液成分と疲労度、ストレスの関係について研究した。 専門領域：臨床化学 本年度の研究業績： ① テーマ別研究 ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ） <研究テーマ：唾液の臨床検査－唾液成分と疲労度、ストレスとの関係－> 学会発表（ 0 回） 学術論文（ 3 編） 著書（ 0 冊）</p>					
・社会的活動等 <p>兵庫県臨床検査技師会 理事</p>					
次年度の課題					
教育活動において、引き続き学生の自主性、考える力、伝える力を高めるよう努める。 研究活動において、研究中のテーマを進めるよう努める。					

教員名	澤村 暢	所属学科	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国試対策委員、就職委員				
クラス担任		クラブ顧問	イムノヘマトロジー部副顧問		
担当科目名	血液検査学実習Ⅰ、血液検査学実習Ⅱ、医動物学・同実習、公衆衛生学実習、医療コミュニケーション演習、病原微生物学実習Ⅰ				
担当科目コマ数	9.0				
本年度の課題					
研究時間の確保					
本年度の目標・方針	実習の効率化、分かりやすく説明する				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>血液実習では説明時に動画を取り入れ、より分かりやすく説明できるよう工夫した。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <p>国家試験対策委員として、国試対策試験問題、総合演習問題の編集等合格に向けてのサポートを行った。また就職委員として模擬面接等を行った。</p> ・研究活動 <p>研究テーマ：FGAノックアウト細胞を用いたフィブリノゲン合成・分泌に関する研究 研究テーマの現状：現在培養細胞を用い研究を行っている。 専門領域：血液検査学、遺伝子検査学 本年度の研究業績： < テーマ別研究 > ・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ） < 研究テーマ：FGAノックアウト細胞を用いたフィブリノゲン合成・分泌に関する研究 > 学会発表（ 1 回） 学術論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）</p> ・社会的活動等 <p>10/11 TOKIWA 健康フェアにて健康チェックを行った。 11/14 淡路ふれあいフェスティバルにて健康チェック</p> 				
次年度の課題					
研究成果の発表					

教員名	溝越 祐志	所属学科	医療検査学科	職名	助手
委嘱委員・職務	学生委員、KTU委員、入試委員、地域交流センター				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	公衆衛生学実習、遺伝子・染色体検査学実習、臨床基礎検査学実習、検査学入門実習、微生物学実習				
担当科目コマ数	7.5				
本年度の課題					
研究テーマの論文投稿または学会発表を行う。 学生に興味を持たせ「考える」実習を実施するよう努める。					
本年度の目標・方針					
一定の研究成果を得る。 実習の授業体系に工夫を凝らす。					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容 神戸常盤大学紀要に報告「好中球におけるプレセプシンの産生メカニズムに関する検討」が掲載され、研究結果を形にした。 担当実習で新規実習内容を立ち上げた。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
b. 教員としての主な活動内容					
・教育活動 遺伝子・染色体検査学実習で「MRSAの遺伝子検出」の内容を新たに追加した。 課題や実習データ管理をマナバ上で行うことで実習のスムーズ化に努めた。					
・研究活動 研究テーマ：好中球におけるプレセプシンの産生メカニズムに関する検討 好中球からプレセプシンが産生されることを示し、さらに今まで報告されている貪食以外の産生機序により産生されることが示唆された。また、プレセプシン及びその複合体を免疫沈降後、ウェスタンブロッティングで検出する系を確立した。 専門領域：生体制御学、感染症学、					
本年度の研究業績：好中球におけるプレセプシンの産生メカニズムに関する検討、溝越 祐志、加藤 健吾、澤村 暢、澁谷 雪子、野村 秀明、神戸常盤大学紀要、vol. 9, p. 113-119. 査読有, 2016.					
◯テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ） <研究テーマ:プレセプシン複合体の形成機序の解明—相互作用タンパクの同定— > 学会発表（ 1回） 学術論文（ 1編） 著書（ 冊）					
・社会的活動等 なし					
次年度の課題					
英語雑誌への論文投稿 学生が受け身にならない授業の展開					

教員名	佐野 太亮	所属学科	医療検査学科	職名	助手
委嘱委員・職務	国試対策委員、ボランティアセンター、LS細胞病理研究ユニット、学内実習安全委員、細胞検査士養成課程委員、カリキュラム&将来構想委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	病理部（副顧問）		
担当科目名	組織学・同実習、臨床病理検査学実習Ⅰ、病理検査学実習Ⅱ、臨床基礎検査学実習、臨床検査入門実習				
担当科目コマ数	8.5				
本年度の課題					
今まで行っていなかった、培養の分野での研究をスタートするため、基礎知識を学び研究の成果につながるよう努めて行く。 昨年度から引き続き、細胞検査士養成課程の試験対策を充実させたい。					
本年度の目標・方針					
1. 本年度行う研究の基本的知識と技術の習得する。 2. 養成課程のオリジナルテキストの改訂 3. 模擬試験結果を反映した個別問題集の作成					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容 1. 研究の基本的知識と技術の習得のため、兵庫医科大学にて研究をスタートし、習得に努めた。 2. 昨年度のオリジナルテキストに学生自信が学んだ知識を書き込めるスペースを作成した。さらに、学んだ知識を整理するための一覧を作成した。 3. 昨年度と今年度の模擬試験結果をもとに正答率リストを作成し、学生個人の成績と正答率に乖離がみられた問題をピックアップし、問題集を作成した。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
b. 教員としての主な活動内容 ・教育活動 臨床病理検査学実習Ⅰ、病理検査学実習Ⅱ、臨床基礎検査学実習、組織学・同実習の準備、レポート、スキッチの書き方のサポートを行った。 細胞検査士養成課程では、1次試験筆記対策、筆記対策模試を行うと共に精神的なサポートを行い、学生の勉学以外のストレスの軽減に励んだ。					
・研究活動 研究テーマ：家族性多発性GISTモデルマウスからの初代培養系の樹立 研究テーマの現状：続行中 専門領域： 本年度の研究業績： テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ） <研究テーマ：家族性多発性GISTモデルマウスからの初代培養系の樹立と薬剤スクリーニング>					

学会発表（ 0 回） 学術論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） ・社会的活動等 子宮の日ボランティア活動、健康フェア、健康福祉まつり
次年度の課題
本年度得た研究技術を生かし、研究目的を達成出来るよう努める。 引き続き、国試対策、細胞検査士養成課程の1次、2次試験対策をより充実させる。

2. 保健科学部 看護学科

教員名	鎌田 美智子	所属学科	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	保健科学部学部長、運営委員会委員、高大連携委員会委員、入試合否判定委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	<p>【4大】看護学概論、基本看護技術IV（看護過程）、看護教育論、看護研究方法論、看護研究、看護活動基礎実習、基礎看護学実習（看護過程）、課題別総合実習</p> <p>【短期大学部通信制課程】看護過程（スクーリング科目）</p>				
担当科目コマ数	9.5				
本年度の課題	教科運営管理の組織的向上をはかるとともに、個人の研究活動を高める				
本年度の目標・方針	<p>1. 看護学の基本となる基礎看護学領域の教科運営の充実をはかり、その検証を行う。</p> <p>2. 学部運営に関する業務整理を行い、効果的な運営管理や個人の研究活動の比重を高める。</p>				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>1. 基礎看護学領域の強化運営の充実とその検証</p> <p>(1) 毎月1回の基礎看護学領域会議を主宰し、領域内教員（7人）らと「各授業内容の精選、授業方法、評価法」等に関して、討議・検討を重ねた。</p> <p>(2) 3年前より、専門分野科目の“看護学の展開”分野・療養支援看護学領域での「看護過程」を、“看護学の基本”に移し、1単位（30時間）の、「基本看護技術IV（看護過程）」として、基礎看護学領域担当の授業科目として改変している。またそれに伴い臨地実習科目を、「基礎看護学（看護過程）臨地実習」に改変している。</p> <p>学生による授業評価（総合）では、「4.0」で、改編前の「3.4」からアップした状況になっている。また看護領域の科学性への感動や、興味深さ等の感想が多く、難解な印象の「思考することを思考する：診断過程」を学修することへの意欲が高まっている。</p> <p>(3) アーリーエクスポージャープログラムとして開設時から導入している「看護活動基礎実習、1年次初期の4月開講、1単位」の実施評価を行う。</p> <p>*方法：質問紙調査</p> <p>*時期：平成27年12月15日（2年生）、12月18日（1年生）</p> <p>*対象：2年生：87人中84人回答（96.6%）、1年生85人中79人回答（92.9%）</p> <p>*結果：*意義がある：96.6%（2年）・97.5%（1年）で、その理由は「専門職としてのイメージが湧く、理論と実践をつなぐ手がかり、コミュニケーションの重要性を実感」等が多かった。*意義なしは、3.6%（2年）・1.3%（1年）で、</p>				

その理由は「知識がない何もできない状況では、見ることしかできなかった不安だった」と回答していた。今回単純集計ではあるが、おおむね効果はあると思われ、継続しながら、今後さらに詳細に検証する必要がある。

2. 学科（学部）運営に関する業務整理を行い、効果的な運営管理、及び個人の研究活動への比重を高める。

- (1) 看護系大学の場合、例えば、病院等の看護師募集が活発に行われており、キャリア課への訪問等で、学部長・学科長への面談要請が多い。また臨地実習打ち合わせ時にも学科長・学部長への要請、その他外部団体との交流、非常勤講師との対応さらには出版社との対応や大量の出版物の処理等、雑務的な業務がすべて看護の統括者（学科長や学部長）に集中している現状にある。他大学では、学部専用の事務員や秘書の設置等でカバーしているところもあるが、本学科では、一昨年からこれらを各委員会等に委嘱したり、学科内での役割運営を高めたりと、業務を整理して一定の方向に整えつつあるが、今年度も雑務に対する多忙さは変わらなかった。

雑務ではあるが確立発展途上の領域では、重要な要素でもあることから、今後も検討を継続し、教育研究への取り組みの時間的比重や環境を高める努力が必要であると思われる。。

- (2) 学部運営においては、今年度より、学科長会議を設け、適宜2学科の教育運営の方針や情報交換を行った。

目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 教員としての主な活動内容

・教育活動

1. 授業等

- (1) 「看護学概論：1年次担当」の学生による授業評価の「総合評価」は「3.9」で、昨年度より0.5ポイントとやや上昇している。毎回の授業出席状況等は従来と変わらず、良好（1回あたりの欠席者0.01人）で、毎回の授業感想・質問では、1回の授業あたり171と、過去に比べて最も多く寄せられている。記述内容も看護学の奥深さや確立過程への興味や感動、今後の展望等を詳細に記載され、看護学への興味・関心・探求の姿勢は高いと思われる。成績評価では、昨年度より5.4ポイント高くまた再試該当者はごくわずかとなっている。この授業は概念的な内容が多く、難解な印象を与えるという科目上の特性があるが、以上のような状況からは、「看護学・看護実践を概観し、看護への興味・関心探究を導く」といった授業のねらいは、ほぼ達せられたものと思われる。

- (2) 「基本看護技術Ⅳ（看護過程）：2年次担当・オムニバス」では「総合評価：4.0」とほぼ昨年と同様の状況であった。また、「看護教育論」は選択科目であるが、選択条件の変更により今年度は55人が選択している（昨年は6人）。総合評価は「3.6」と、昨年の「4.6」よりも大幅に低下している。これは、昨年のゼミ形式のスタイルから講義形式に変化したことが一因であると思われ、授業方法を

検討する必要がある。さらに短期大学部通信制課程の「看護過程」では、総合評価「4.2」と、昨年と変わらず、自由記述欄においても「難しい内容だが、臨床で行っていることの意味が分かり、理論や看護の専門領域を深め学ぶことへの意欲と興味が高まった」等の、看護実践の中核となる方法論を学ぶ意義が多く寄せられていた。

・研究活動

1. 研究テーマ：看護過程（看護診断）、看護実践における専門職の判断能力、看護行為の構造化、看護学生の臨地実習における思考力、臨床力に関する研究、看護学教育評価等
2. 研究テーマの現状：「看護教育評価」に関連する一部のデータを分析し、学会等で報告
3. 専門領域：基礎看護学（看護学概論、看護過程、看護診断、看護教育論、看護教育評価論、看護歴史）、看護管理学、看護技術学

・本年度の研究業績：

1. 文科省私立大学戦略的基盤形成支援事業、：「災害対応を組み込んだ機動的サポートシステムの構築（神戸常盤モデル）」、3/11 成果報告会開催
2. 学会発表（ 2回） 学術論文（ 1編） 著書（ 冊）

・社会的活動等

1. 全国保健管理研究集会。当番校として開催参加（7月 ラッセホール）
2. 同上 看護師部会開催参加（9月 本学）
3. 奈良県看護協会臨床指導者研修講師「実習指導の意義及び評価方法（9月）
4. 日本私立看護系大学協会研修会を企画主催「看護専門職としてのコアコンピテンシーと国家試験（続）」（大阪：2月、講師梶田叡一氏）
5. 本学科臨床指導者研修会主催（3月）
6. 本学科FD研修会講師「臨地実習科目における看護実践能力の育成と評価」（3月）
7. 日本私立看護系大学協議会理事（理事会・委員会6回、総会・研修会2回）

次年度の課題

- * 臨床（臨地実習病院）との連携研究及び私立看護系大学協会との連携研究の実施
- * 個人研究「看護教育評価」「専門職化への教育」等に関する分析等の成果を公表

教員名	長尾 厚子	所属学科	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	看護学科長 運営委員・通信教育委員会・国家試験対策委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	(通学課程) いのちと共生・看護対象論Ⅰ・看護活動基礎実習・生活健康論実習・基礎看護学実習(看護過程)・課題別総合実習・看護研究演習 (通信制課程) 看護教育指導技術・看護対人関係論・看護と研究基礎看護学演習・基礎看護学実習				
担当科目コマ数	(保健科学部看護学科) 11.5 (CCN) 162時間				
本年度の課題					
1) 教育活動における授業内容の精選・授業方法の工夫 2) 研究テーマの追求に向けて研究活動を実施する。					
本年度の目標・方針					
<目標・方針> 1. 担当科目における教育内容及び教育方法の充実を図る。 2. 研究活動の実施					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容 1. 担当科目における教育内容及び教育方法の充実 1) 「看護対象論Ⅰ」におけるS P (模擬患者)演習の充実 今年度は、本学の地域交流事業の一環として、地域の方々に呼びかけ、「S P養成講座」開講した。12名が受講され、そのうち9名が、1年次の後期に開講される「看護対象論Ⅰ」に模擬患者として参画していただいた。模擬患者とのセッションを全員が実施し、96%の学生が「とても良かった」と回答した。臨場感あふれる授業内容がコミュニケーションの苦手な学生への効果的な学習方法であることが確認でき、各自がS P・教員のフィードバックから今後の課題も見いだせている。 本学での「S P養成講座」の継続が課題である。 2) 「看護教育指導技術」(通信制課程スクーリング科目) 昨年度より東京会場が開設され、本学・京都・東京と会場により受講者数が異なるため、教育内容の精選・教育方法の充実を図った。 2. 研究活動の実施 1) 看護学教育学会での発表：1) 短期大学看護学科通信制課程(2年制)の学生が就業する中小規模施設におけるヒヤリ・ハット体験の実態 2) 学術フォーラムでの発表：①模擬患者との対応場面での学生の学び—対象の苦痛・苦悩に注目した分析結果—、②へき地における看護に関する研究の動向、③「高齢者健康体操」に参加している地域在住高齢者の現状と継続参加を可能にする要因検討 3) 継続研究：①短期大学看護学科通信制課程(2年制)の卒業生の学修成果の実態②模擬患者との対応場面からの学生の学び③看護学生の社会的スキルの育成に向け					

<p>た授業実施の成果を量的・質的側面からの検討。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>・教育活動</p> <p>(通学課程) ①「いのちと共生」は1年次前期に開講され、受講者数が医療検査学科・看護学科合わせて130名となり教育方法に工夫を加えた。</p> <p>②「看護対象論Ⅰ」は、SP(模擬患者)演習の充実を図った。</p> <p>③「生活健康論実習」はアクティブラーニングとして、学生の主体的な学びの意欲を惹起するよう実習指導の内容の充実を図った。</p> <p>④「基礎看護学実習(看護過程)」は、施設との調整を図り、実習内容の充実を図った。</p> <p>(通信制課程) ①「看護教育指導技術」は、本学と地方会場の受講者数の違いにより、教育方法の工夫を図った。</p> <p>②基礎看護学実習では、スクーリング内容の充実を図った。</p> <p>③テキスト科目である「看護対人関係論」「看護と研究」「基礎看護学演習」は、添削指導の充実を図った。</p> <p>・研究活動</p> <p>研究テーマ：①対人援助者としての能力育成 ②へき地で勤務する看護職者に関する研究 ③看護学科通信制課程の卒業生の学修成果の実態</p> <p>研究テーマの現状：①「看護学生の模擬患者との対応場面での体験と社会的スキルとの関連」に関するデータ収集からさらに質的研究の成果について継続検討中である。②2015年度在宅医療助成(後期)一般公募「在宅医療研究への助成」に採択され研究実施中。③調査終了し、一部を日本看護学教育学会への発表準備、さらに分析を続行中。</p> <p>専門領域：基礎看護学</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金(在宅医療助成)</p> <p>＜研究テーマ：①学会発表：テーマ「短期大学看護学科通信制課程(2年制)の学生が就業する中小規模施設におけるヒヤリ・ハット体験の実態」</p> <p>学会発表(1回) 学術論文(0編) 著書(0冊)</p> <p>・社会的活動等：なし</p> <p>次年度の課題</p> <p>1) 教育活動における授業内容の精選・授業方法の工夫</p> <p>2) 研究テーマの追求に向けて研究活動を実施する。</p>

教員名	岩越 美恵	所属学科	教育イノベーション機構, 看護学科 (養護教諭課程)	職名	教授
委嘱委員・職務	学生部長、健康保健センター委員、教育支援センター委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	健康科学総論 (N・O)、養護概説、症候論Ⅱ、障害児保育、障がい児の理解と支援、養護実習Ⅰ・Ⅱ、事前及び事後の指導、教職実践演習、看護研究、臨床病態学Ⅱ、臨床病態学演習Ⅰ・Ⅱ、医療から見た特別支援				
担当科目コマ数	9.8				
本年度の課題	1) 自分の健康を守る (新たな科目「医療から見た特別支援」も加わって) 2) 教育イノベーション機構の役割をメンバー全員で明確にする。				
本年度の目標・方針	1) 健康を保ち、目的を明確にして活動する。				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>火・木研究日には臨床研究のフィールドである障害児診療をフルタイムで行い、残る4日は大学の教育・委員会や機構活動があり、週休1日というハードな生活を食事・睡眠・運動・休養のバランスをとりつつ健康を保ち、続けることができた。イノベーション機構の役割も次第に明確になり、集中できるようになりつつある。学生委員会では2016年度の学外オリエンテーションの新しい会場を探すことから始まったが、それもキャリア支援課の骨折りで、淡路夢舞台国際会議場と隣接のウェスティンホテル淡路に決定し、そこで学生中心に教員とも親睦を深める成果もだせたと思う。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・「事前及び事後の指導」には、引き続き養護教諭のOGを非常勤講師にお迎えし、より実践的な実習前指導ができた。 ・「障害児保育」では、西宮市内の重度心身障害者の方の在宅訪問を授業に取り入れ、実態を知り、家族とも交流できて、評価が高かった。 ・養護実習Ⅰでは、上野が原が時期が合わず、急遽であったが阪神昆陽高等特別支援学校が引き受けてくださり、新しいタイプの支援学校種が加えられた。 ・前年度同様、教職支援センターの支えのもと、卒後非常勤講師として就職する養護教諭課程の学生が一定数定着している (4名)。 ・研究活動 <p>研究テーマ：1) 障がい児と睡眠障害、2) 障がいと遺伝子異常</p> <p>研究テーマの現状：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) に関して、新たな展開はなかった。2) については、小頭症と遺伝子異常の検討研究計画を立てたが、対象の承諾が得られなかった。 				

専門領域：障がい、睡眠障がい、遺伝子 本年度の研究業績： 学会発表（ 0 回） 学術論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） ・社会的活動等 ・11月に、西宮市立西宮養護のPTA保健学習で、「重度障害児の健康」について講演。 ・西宮市社会福祉協議会「青葉園」の運営委員、NPO法人青葉福祉会の評議員として定例会に出席 ・三木市教育センターにおける教育相談（1回/月）に定期奉仕
次年度の課題
1) インクルーシブ教育における合理的配慮について、ときわ幼稚園をフィールドに研究テーマを探る。

教員名	山崎 麻由美	所属学科	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試広報委員・副委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	英語同好会		
担当科目名	外国語コミュニケーションIA、英語II、文献講読、医療英語（N科）、医療英語（M科）、医療英語（O科）、キャリア基礎、医学英語（通信制課程）				
担当科目コマ数	9.3				
本年度の課題					
①テーマ別研究を実施し、専門英語教育についての研究を進める ②19世紀イギリス文学・文化の研究に昨年度に引き続き取り組む					
本年度の目標・方針					
①テーマ別研究で教授方法の効果を測る ②歯科衛生士の専門英語教育に関する調査を実施する ③19世紀イギリスにおける医療・看護についての研究を進める					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容 ＊テーマ別研究計画書に沿って調査と研究を行った。 ＊学会発表に向けての準備に取り組んだ。 目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった					
b. 教員としての主な活動内容 ・教育活動 学生の自律学習を促すような授業内容・教材、教育法を検討し、授業に導入した。 ・研究活動					

<p>研究テーマ：①歯科衛生士を目指す学生のための専門英語教育 ②19世紀イギリスにおける医療－看護を中心に</p> <p>研究テーマの現状：①データを解析中 ②研究発表をした内容をもとに論文執筆中</p> <p>専門領域：英語教育学、英文学</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）</p> <p><研究テーマ:歯科衛生士の専門英語教育において自律学習習慣を育てる教授法及び教材開発></p> <p>学会発表（ 2回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>・社会的活動等</p>
<p>次年度の課題</p>
<p>①テーマ別研究の成果をまとめ発表すること ②英文学分野での研究成果発表すること</p>

教員名	森松伸一	所属学科	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ALO（自己点検・評価委員会）、研究倫理委員会副委員長、看護学科学生研究倫理委員会（学研委員会）委員長、担任統括				
クラス担任	4年生Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護病理・病態学、症候論Ⅰ、感染看護学、病原微生物検査学Ⅰ・Ⅱ、感染制御学、臨床病態学Ⅰ（分担）、総合医学検査特論（分担）、人体のふしぎ（分担）、臨床検査学（分担）、国際保健医療活動Ⅰ・Ⅱ（分担）				
担当科目コマ数	10.1				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・N科1年生対象の後期授業科目（感染看護学、看護病理・病態学）はどちらも未だ医療についての知識や理解が乏しい時期に開講されることから、解剖生理学とも協調を取ってわかりやすい授業に持って行く。 ・使用している教科書の改定・執筆を行う。 				
本年度の目標・方針	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルとして相変わらず評価が低かった板書について改善・努力する。 ・サン・ラザロ病院（フィリピン）との学術協定締結後も国際的な視野に立った研究活動や大学コンソーシアムひょうご神戸関連の国際学外活動を充実させる。 				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>「学生による授業評価」で評価点は感染看護学でやや低下したが目標は達成されつつあるものと思われる。サン・ラザロ病院との学術協定締結後初めてとなる国際学外活動（大学コンソーシアムひょうご神戸）に結びつけたことは評価できるが看護コースの応募者がなかったことが課題となる。</p>				

目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 教員としての主な活動内容

・教育活動

主な教育活動内容として担当科目はそれぞれにシラバスを作り、パワーポイントや教科書などの資料に基づいて講義を行っている。また受講票カードにタスクとして前回の授業の重要ポイントや基本事項を質問後にまとめさせると共に出席カードとしても利用している。講義はポイントを押さえ、できるだけ分かり易く、また重要項目は繰り返し強調するようにしている。通信制過程を含め学生からの授業やレポートに関する質問などにはオフィスアワーのみならず授業中・外を問わず対応し、分かり易く説明をするとともに希望があれば随時少人数グループを対象にした講義も行っている。

「学生による授業評価」では態度教育として特に授業中の態度について重きを置いており最初の授業の中で学生との間で約束として取り決めている。この指導のためか学生の評価は全体的に低い（「学生へのメッセージ」参照）。また、特に1年生対象科目は臨床科目が前期にないため、理解が難しいことも要因の一つかと思われる。これは「学生による授業評価」でカテゴリー別授業評価結果の内の総合評価を見ても明らかであるが、年度を追う毎に点数は上昇してきている。各学科平均よりも低い点数については自分が力を入れて準備して伝えたかったメッセージが学生にうまく伝わらなかった結果として、もっと努力しなければと思っている。N科1年生対象の後期授業科目（感染看護学、看護病理・病態学）はどちらも未だ医療についての知識や理解が乏しい間に開講されることも考えられる。特にスキルとして相変わらず評価の低い板書についてはさらに学生に分かり易いようになるよう、これからもPDCAサイクルを利用して改善・努力していきたい。

・研究活動

研究テーマ：感染制御および感染制御技術の臨床へのフィードバック

研究テーマの現状：これまでのHIVやMRSA、*Helicobacter pylori*などの病原体そのものを用いた研究から、学生実習などを基にしたアンケートなどの解析を中心とした論文作成に大きく変わってきている。このため論文としてまとめ上げる活動は少なくなっており、学会での共同発表や著書（分担）の執筆などが中心活動となっている。学生卒業研究演習や実習指導、講演会などの学外活動などでお茶を濁しているとも言える。

専門領域：感染症および感染制御学、臨床微生物学、基礎微生物学、小児科学全般

本年度の研究業績：

テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）

<研究テーマ： >

学会発表（ 0回） 学術論文（ 0 編） 著書（ 1 冊）

・社会的活動等

大阪医科大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査専門部会部会員（学外）、大阪医科大学研究倫理委員会委員（学外）、大阪医科大学非常勤講師、医療法人清恵会医療専門学院非常勤講師、日本感染症学会評議員、日本ウイルス学会評議員、日本バイオセーフティ学会認定 FBB ファウンダー、神戸港衛生管理運営協議会顧問

次年度の課題

・N科1年生対象の後期授業科目（感染看護学、看護病理・病態学）はいずれも未だ医療についての知識や理解が乏しい期間に開講されることから、解剖生理学とも協調を取ってわかりやすい授業に持って行きたい。

・さらに使用している教科書の改定・執筆を行う。

教員名	柳本有二	所属学科	N科	職名	教授
委嘱委員・職務	危機管理委員会 図書紀要委員会				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	健スポ I, II. 運動生理学, 保健行動論, 学校保健				
担当科目コマ数	10.2				
本年度の課題	授業における学生の自主的な活動の検討				
本年度の目標・方針	1. 学齢期におけるノルディック・ウォークの普及 2. 介護予防プログラムの開発・研究 3. 認知症研究				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容 健スポでは、歩数計を活用した 目標達成度の評価：1. できた</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 学習の連続性を導くため授業ノートを作成し、毎授業始めに前回の授業ノートから特筆事項を紹介した。また、グループを作り、討論をできるようにした。 スポーツの歴史からニュースポーツのあり方を考え、ノーマライゼーション的な身体活動について検討した。 健スポでは、歩数計を活用したため、受講生が運動量を把握できた。そのことが、学生の学習を喚起したと思われた。また、視覚障害者とのコラボにより、障害者との身体活動による関わりを持つことができた。 ・研究活動 研究テーマ：ノルディック・ウォークおよびウエルネスダーツを活用した介護予防プログラム開発 研究テーマの現状： 現在、脳内酸素化ヘモグロビン量をノルディック・ウォークおよびウエルネスダーツ活動前後に測定し、脳内活性度を検討している。また、ウェアラブル脳波計を使用して、認知症患者と視覚障害者との会話時の脳活性度について研究している。 <p>専門領域：運動生理学, 教育学 本年度の研究業績：</p>				

[健康支援実習Ⅰ] 事前学習指導を強化し実習評価点を向上させた。

・研究活動

究テーマ：「災害看護教育プログラムの開発」「訪問看護ステーションの災害への備え」
「POCTが創出する新たな在宅看護像」

研究テーマの現状：テーマごとに研究の全体像を描き、計画的に研究を遂行している。

専門領域：看護教育方法論の開発・評価、看護対人技能、災害看護、在宅看護

・本年度の研究業績

[科研]

①基盤研究C(研究代表者)：災害時ハイリスク在宅療養者に持続可能な在宅ケアを提供する基本モデルの構築

②基盤研究C(分担者)：在宅療養高齢者に対する生活の質向上のためのチームアプローチの自己評価指標の開発

③挑戦的萌芽研究(分担者)：野外教育・防災教育を通じた「いのちの教育」の開発ー評価尺度作成と日常化への挑戦ー

[その他の外部資金]

①J R 西日本あんしん社会財団研究助成(研究代表者)「備えの力を高める災害看護シミュレーションプログラムの開発」

②財団法人在宅医療助成勇美記念財団 研究代表者「在宅療養者・家族のための大規模災害の備えの現状と課題」

③フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団(共同研究)「多職種からみた療養介護の看護実践行動」

④私立大学戦略的研究基盤形成支援研究(共同研究者) 文部科学省・私立大学戦略的研究基盤形成支援研究「災害対応を組み込んだ機動的サポートシステム(神戸常盤モデル)の構築」

・学会発表(15回) 学術論文(5編) 著書(冊)

・社会的活動等

[講演・研修会講師・シンポジスト]

①川崎病院看護部研修会「看護を語ることの意味」

②川崎病院研修会：BCP計画の指導 / 災害訓練の指導

③川崎病院看護部研修会「後輩の学びと成長を育む指導力」

④川崎病院看護部研修会「後輩育成のコミュニケーション」

⑤川崎病院看護部研修会「災害時急性期看護のシミュレーション」

⑥神鋼記念病院看護部研修「ケアのタペストリーを織りなす看護者のまなざし」

⑦兵庫県立総合リハビリテーション中央病院「ナラティブー看護臨床からのまなざしー」

⑧みどり病院看護部研修「ー看護の喜びー」

⑨みどり病院看護部研修「看護を語る意味」

⑩淡路地域病院研修会「災害に学ぶー来たるべき災害に備えるー」

⑪兵庫県立明石南高等学校「看護の仕事」

[学会活動]

・日本看護学会 論文選考査読委員、優秀論文選考ワーキンググループ委員

<p>[非常勤講師]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸大学大学院保健学研究科博士前期課程「ヘルスプロモーションⅠ」 ・神戸大学大学院保健学研究科博士後期課程「ヘルスプロモーションⅡ」 ・神戸大学保健学部「災害保健」 <p>[外部機関への研究支援]</p> <p>済生会兵庫県病院 / 西宮協立訪問看護ステーション / みどり病院/ 香川大学医学部医学系研究科</p>
<p>次年度の課題</p>
<p>1) 研究成果を論文として外部により多く発信する。 2) 研究を深め、その成果を教育に反映させる好循環を生み出し、学生や社会に還元する。 3) FD委員長として3年目の役割を確実に遂行する。 4) 大学内部・関連機関への研究支援を行う。</p>

教員名	生島 祥江	所属学科	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	個人情報保護委員会委員長、広報誌編集委員会副委員長、看護学科臨地実習委員会委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	成人看護学概論、看護対象論Ⅱ、慢性病看護論、緩和ケア、療養支援実習Ⅱ、療養支援実習Ⅲ、課題別総合実習、看護活動基礎実習、看護研究				
担当科目コマ数	21.7				
本年度の課題					
考える学生を育てる授業展開					
本年度の目標・方針					
考える学生を育てる授業内容・方法の工夫 研究テーマに関するデータ収集の基盤づくり					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>臨地実習指導者研修会で企画運営し、考える学生を育てる授業展開に反映させた。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた ③あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <p>講義科目では、manabaによるドリル活用して基礎知識を学生自身が確認できるようにし、グループワークで課題に取り組めるようにした。また、自学自習意欲を高めるように提出物のコメントに配慮した返すことに努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動 <p>研究テーマ：臨地実習に向けた学内演習のあり方の検討 研究テーマの現状：資料収集</p>					

<p>・教育活動</p> <p>保健師養成課程（選択制）の教育活動を安定させた。「地域看護概論」において、保健師について興味関心を広げ、2年後期の学生の主体的な選択につなげた。特に「公衆衛生看護概論」と「公衆衛生看護管理論」等で公衆衛生を基盤とした行政看護（保健）のPDCA過程についての広範囲の理解が図れるよう努めた。保健師国家試験受験資格取得希望者への教育内容の強化を行った。</p> <p>・研究活動</p> <p>研究テーマ：①科学研究費補助金基盤（C）「看護職の意識的なコミュニケーションのモデル化と保健医療従事者向けナラティブ・コーチング教材の開発」（代表）②科研基盤B「ハンセン病問題の多声的記述－「和解の時代」の研究展開（分担）③科研基盤（C）保健師のグローバルコンピテンシーと教育プログラムの開発（分担）④科研基盤（C）野宿生活者が「野宿」から「社会」に戻ることを目指した看護支援（分担）⑤科研基盤（C）「実践型地域アセスメントモデルと教材の開発」（連携）⑥学内テーマ別研究「統合カリキュラムにおける保健師基礎教育の課題から考える選択制教育のあり方」（共同）兵庫県立大学「国際まちの保健室」の開催による「外国人向けの健康増進プログラムの開発（共同）⑦その他 行政や他大学との共同研究など</p> <p>研究テーマの現状：科研およびその他の研究について安定的に実施した。</p> <p>専門領域：公衆衛生看護学・地域看護学、保健師活動、公衆衛生・保健行政、マイノリティの健康</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>○テーマ別研究・○ジョイント研究・○科研・その他の外部資金</p> <p>学会発表、教育講演、専門誌掲載、研究報告書や教材の作成等を行った。</p> <p>学会発表（12回うち海外5回、教育講演3回） 学術論文（4編） 著書（1冊）</p> <p>・社会的活動等</p> <p>たつの市食育連絡会議（委員長）、自治体介護保険関連委員など</p> <p>兵庫県看護協会「まちの保健室」特別委員会（委員長）、地域での「まちの保健室」の協働（国際協働活動含む）</p> <p>所属学会における査読、座長などのほか、取得している公認資格を生かした活動、他大学、大学院修士課程学生への学外講義等専門領域が活かせる活動について対応した。</p>
<p>次年度の課題</p> <p>(27年度で退職)</p>

教員名	尾崎 雅子	所属学科	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教務委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	(大学) 基本看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、看護活動基礎実習、生活健康論				

	実習、基礎看護学実習（看護過程）、課題別総合実習、看護研究（短大部）看護通信制課程スクーリング「看護過程」
担当科目コマ数	20.7
本年度の課題	効果的な教育内容や方法の検討および研究活動への継続した取り組み
本年度の目標・方針	
学生の興味・関心を刺激し、学修効果のある授業内容の精選と方法の工夫。 研究活動成果の公表	
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>授業内容に対する学生の反応や評価結果から学生の関心度や理解度をもとに教育内容や方法の検討を行った。研究活動では関連研究会へ参加し、共著での書籍の出版を行った。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <p>「基本看護技術Ⅳ（看護過程）」の演習に用いる事例を新たに作成したが、学生の弱点である解剖生理学の強化に向けて、“循環器系に健康障害のある患者”を取り上げた。また、学生個々の到達状況に応じて時間外の学習支援を行った。学生からの授業評価では総合4.0であり、難しいという反応が多い中「看護過程の進め方が少しわかった」という意見もあり、9月の基礎看護学実習（看護過程）へつなげることができたと考える。しかし、グループ学習では差がありディスカッションがなかなか進まず「アセスメントだけならだらと詰め込まれている」などの意見もあった。学習が進めない学生は自ら支援を求める行動もとらず、意欲を低下させることが心配されるので、今後はそのような学生にどうかかわっていくかが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動 <p>研究テーマ：1) 看護技術教育の教育方法の工夫と効果について 2) 看護のあり方—東洋的な視点での捉え直し—</p> <p>研究テーマの現状：1) データ収集と分析 2) 論文執筆と共著による著書の作成準備中</p> <p>専門領域：基礎看護学</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>発表：＜研究テーマ：模擬患者との対応場面での学生の学び—対象の苦痛・苦悩に注目した分析—＞</p> <p>著書：人間であること—9人9色の物語—（共著）「無心にいきる」晃洋書房 学会発表（ 1 回） 学術論文（ 0 編） 著書（1 冊）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的活動等 <p>1) 兵庫県看護協会「まちの保健室」（本学拠点）ボランティア</p>

2) はすいけデイサービスにおける神戸市介護予防事業（口腔機能向上プログラム） 3) 日本私立看護系大学協議会協力委員
次年度の課題
担当する授業科目において、教育内容・方法の検討を継続して行う。研究活動については新たな課題について取り組む。

教員名	中田康夫	所属学科	教育イノベーション機構（看護学科併任）	職名	准教授
委嘱委員・職務	ボランティアセンター長、ICT推進委員、第11期長田区民まちづくり会議委員（にこやか部会長）				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	基礎統計学、電子コミュニケーション、ボランティアの理論と実践（以上、看護学科）、キャリア基礎、いのちと共生（以上、看護・医療検査学科）、対人援助技術演習（医療検査学科）、プレゼンテーション技法、アシスタントワークⅢ、福祉社会の理解Ⅰ（以上、口腔保健学科）				
担当科目コマ数	8.7				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の能動的な学修をいかに促進することができるか？ ・学生の思考力をいかに涵養することができるか？ ・社会的要請に十分応えることができているか？ 					
本年度の目標・方針					
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の能動的な学修方略の検討と導入 ・学生の思考力の涵養の方略の検討と導入 ・社会的活動の可能な限りの推進 					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>文献検討、教育イノベーション機構内での討議、ならびに目標に関連する学外の講演会・研修会（「ラーニング・イノベーションカンファレンス2015」「2015年度京都FDeR塾大学での「学びの第一歩」をどうデザインするか？」「新しい教養の学びとその質保証（Quality Liberal Learning）～グローバル化時代における教養の学びを考える～」「問題作成者が語る～世界で認められるアセスメントとは？～」など多数）に積極的に参加し、自己の教育・研究活動に反映した。</p> <p>また、社会的活動としては、長田区における認知症カフェ「なあんカフェ」の運営支援、大谷町介護予防カフェ「ひだまりサロン」の運営支援、庄山町あじさいクラブ介護予防カフェの運営支援に携わった。</p>					

目標達成度の評価 ①.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった

b. 教員としての主な活動内容

・教育活動

例えば、電子コミュニケーションやプレゼンテーション技法では「課題解決方法の修得」「学生同士の教え合い」を導入したりするなど、いずれの科目においても、学生を成人学修者と捉え、従来型の知識・技術の一方通行的な伝達に終始するような方法を極力回避し、学生主体の講義・演習（自己主導型学習）になるように努めた。

・研究活動

研究テーマ：

1. 高齢者のQOL向上に関する研究
2. 能動的学習者を育成するための教授－学修法の開発

研究テーマの現状：

1. 高齢者のQOLに及ぼす影響について多角的な視点から検討し、それを地域に還元しつつデータを収集中
 2. 能動的学習者を育成するための教授－学修法を教学マネジメント改革の中で検討中
- 専門領域：老年看護学、看護教育学、看護統計学、看護情報学

本年度の研究業績：

テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）

<研究テーマ： >

学会発表（ 2 回） 学術論文（ 2 編） 著書（ 1 冊）

・社会的活動等

1. 第11期神戸市長田区民まちづくり会議の委員・同会議にこやか部会部会長
2. 長田区老人クラブ連合会主催の体力測定回の講師
3. きたすま在宅福祉センターすこやか友が丘の運営推進委員会の座長
4. 平成27年度長田区地域づくり活動助成公開企画提案回審査員
5. 日本赤十字社和歌山医療センター看護部の指導者育成コース研修における人材育成や指導に関心のある看護師を対象とした「リフレクションとは？ その目的と方法」をテーマとした研修会の講師（全4回）
6. 姫路赤十字病院看護部の教育プログラム「リフレクティブな後輩育成」をテーマとした研修会の講師
7. 神戸市長田区における「なぁタンカフェ（認知症カフェ）」の運営スタッフ
8. 大谷町介護予防カフェ「ひだまりサロン」の講師
9. 庄山町あじさいクラブの介護予防カフェの講師

次年度の課題

- ・教学マネジメント改革に合わせ学生の能動的な学修方略のさらなる検討・導入
- ・これまでの活動のまとめを紀要に投稿（特に介護予防カフェを中心に）
- ・社会的活動として、現在進行中の「なぁタンカフェ（認知症カフェ）」「介護予防カフェ」のより一層の推進

教員名	黒野利佐子	所属学科	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	FD委員・国際交流委員・国家試験試対策副委員長・就職委員				
クラス担任	2年主任 Aクラス担任	クラブ顧問	英語同好会・陸上部		
担当科目名	国際看護活動論・国際医療活動論II・看護技術I/II/IV・活動基礎実習 ・看護研究・課題別実習・老年概論・老年援助論・生活健康援助論				
担当科目コマ数	20.1				
本年度の課題	基礎看護技術演習 I/II の指導の一環をしっかりと担う				
本年度の目標・方針	基礎看護技術演習 II では、看護技術の必要性・意義を解剖生理から理解できるような講義・演習を工夫する				
主な活動内容	<p>a. 基礎看護技術演習の授業を11年目の教員生活で初めて関わることになった。これまで基礎看護技術演習について深く学んだことがなかったので、教科書はもちろん、参考書、そして何より基礎看護領域で経験を積まれた他の教員と協議をし新たに学びながら授業計画を行い、振り返り成果を評価しながら行うことができた。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 2年生については前期に看護技術IVで紙上患者の看護過程において心不全を患う方の事例で展開させた。後期の老年援助論では、前期で取り上げた事例の看護展開を紙上での演習からさらに深め、模擬患者の生活指導を食事・排泄・清潔など8場面からロールプレイを通して模擬実践・体験させることができた。嚥下リハビリテーションの演習授業ではピアチューターを指導しつつ演習授業を展開させて学生自らが学んで指導する能動的学習が図れた。一昨年教員生活で初めて平均値を割った授業評価を受けた老年概論の授業を昨年度も一年生に行ったが、受け身の講義に対する授業一般に対する評価が下がるのが一因と分析し、学生個々の課題や活動、レポートを増やし、グループワークで学生が発表する機会を増やしたことがよく影響してか、今年は分野別の評価はすべて学科平均を上回り、総合評価では4.3とすこし評価を改善することができた。しかし基礎領域の6人の教員が満身創痍で学生個別に密にかかわれる技術の授業は評価は毎回4.5を上回るなので、其の比ではない。 ・研究活動 <p>研究テーマ：医療社会学的テーマから国際保健まで多岐にわたる 研究テーマの現状：参考文献を時々集め、乱読しそのままになっている。 専門領域：国際看護 本年度の研究業績：まちの保健室 外国人の健康相談授業、都会から移住してへき地で勤める看護師の学びのプロセス研究 テーマ別研究・<u>ジョイント研究・科研</u>・その他の外部資金（ ） <研究テーマ： 国際まちの保健室 ></p>				

学会発表（ 1 回） 学術論文（1 編） 著書（ 冊） ・社会的活動等 国際まちの保健室：健康相談・健康診断 はす池 介護予防事業
次年度の課題
・国家試験対策におけるきめ細やかな個別の支援＊ ・自己の研究活動
活動内容の補足
<p>＊国家試験合格率100%は大学の到達目標ではなく、学生が専門職として旅立つ前の到達できないとならないレベルの minimum requirement 必要最低条件 であると私は提唱し続けている。国家試験問題の中には確かにテストのためのテストのような臨床での価値を疑うような不適切問題もまだ混在するが、かなり実践の場で活用できるような出題も増えてきた。人体の解剖生理から疾患の症状を理解し、そこから治療やケアを考えられるようになるためには、4年生になって、初めて解剖や生理の知識が定着してやっと思考のプロセスを踏みながら問題の解答ができたというのでは、遅きに失する。こうした意味でも、昨年度から基礎看護技術の I/II/IV の演習や講義を通じて低学年の学生に接する機会をいただいたので、解剖・生理の知識がいかに看護技術の提供と深く結びついているか、学生自身が気付けるような授業・演習の構成を今後も他の基礎看護領域に携わる教員と協議し、創意工夫ある授業づくりを実践していきたいと決心している。</p>

教員名	庄司靖枝	所属学科	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員、実習委員、就職委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	小児看護学概論、看護対象論Ⅴ、小児援助論、母子支援実習Ⅰ 母子支援実習Ⅱ、健康支援実習Ⅱ、課題別総合実習、看護活動基礎実習 看護研究				
担当科目コマ数	22.6				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・「小児がんの子どもの転籍に関わる人の体験や思いの調査」の教員の調査をまとめる ・母子支援実習の学生からの実習評価の結果をまとめ、短期実習の有用性の検討をする ・小児援助論の授業で、看護計画の評価の方法を取り入れた看護過程の展開を教授する 					
本年度の目標・方針					
<ul style="list-style-type: none"> ・「小児がんの子どもの転籍に関わる人の体験や思いの調査」の教員の調査の分析する ・母子支援実習Ⅱの学生の実習評価の結果をまとめ、小児看護における短期実習の有用性の検討をまとめる ・小児援助論の授業で、看護計画の評価の方法を取り入れた看護過程の展開を教授する 					

<p>主な活動内容</p> <p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子支援実習Ⅱの学生の実習評価のアンケート結果をまとめ、短期実習の有用性について分析し、日本小児看護学会第25回学術集会にて発表した。 ・上記のアンケートをもとに、短期実習の学生の影響を本年度の卒業生に詳しくインタビューし調査した。 ・小児援助論の授業で、看護過程の評価に関して丁寧に教授し、実習においてもその強化を行った。 <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. <u>あまりできなかった</u> 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 ・本年度から小児看護概論の講義を受け持ち、小児看護学の概論（1年生）から課題別総合実習（4年生）までの一連の小児看護学の基礎となるものから応用、実践に深化させる授業の構成にするためのネットワークの道筋が出来た。 ・健康支援実習Ⅱを初めて2年目になり、学生は療育施設の子どもたちの実際を学ぶことが出来、現在の小児医療の中で注目されている障がいを持ちながら生活している子どもたちの問題を考えることが出来るようになった。 ・小児援助論の中では、障がい児施設に勤務する卒業生のゲストスピーカーを講義に参加してもらい、健康支援実習Ⅱへの理解の一助とした。 ・研究活動 <p>研究テーマ1：「小児がんの子どもの転籍に関わる人の体験や思いの調査」 研究テーマ1の現状：上記の教員の調査の分析はまだまとめられていない 研究テーマ2：小児看護学における短期間の臨地実習の検討 - 学生実習評価アンケートより - 研究テーマ2の現状：上記の分析の結果をもとに、本大学で行っている実習への取り組みの何が学生の学びに影響を与えたのかを調査した。</p> <p>専門領域：小児看護学 本年度の研究業績： テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ） <研究テーマ：小児看護学における短期間の臨地実習の検討 - 学生実習評価アンケートより 日本小児看護学会第25回学術集会 千葉県 東京ベイ幕張ホール 学会発表（1回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的活動等 ・兵庫県看護協会「まちの保健室 子育て支援」（6月、10月） ・小児がんの子どもの親の会（さくらんぼの会）ボランティア（親の会と共同で小児がんの子どもたちに、クリスマス会を本学生とともに開催）（12月）を行った ・神戸大学周産期センター「かるがもの会」に学生と参加し、共同企画も行った（11月） <p>次年度の課題</p> <p>教育については、学生が実践で受け持つ患児に使えるような看護計画の立て方を考えられるような、講義・演習の見直しを行う。</p>
--

<p>研究については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究2：小児看護学における短期間の臨地実習の検討 - 学生実習評価アンケートよりの研究結果を踏まえ、短期実習の影響を検討するために、「短期間の小児看護学実習における学生への影響と学び」の研究を行い、分析し論文にまとめる ・ 研究3：卒業生を取り入れた演習についての研究を行う

教員名	岩切 由紀	所属学科	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試広報委員、看護学科臨地実習委員（副委員長）				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	クリティカルケアⅠ・Ⅱ、看護研究方法論、看護研究、療養支援実習Ⅱ・Ⅲ				
担当科目コマ数	25.7				
本年度の課題					
<ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケアⅠ・Ⅱのアクティブラーニング等、授業方法の導入による展開法の転換とこれによる学習成果の評価を行う。 2. 看護研究方法論の授業担当（オムニバス）となるため、基礎的な看護研究の実施ができるよう効果的な授業内容の構成と展開を行う。 3. 一次救命処置の評価に関する研究計画と研究の開始。 					
本年度の目標・方針					
<ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケアⅠ・Ⅱの授業方法を検討し、次年度の臨地実習に連動させる。 2. 看護研究方法論の授業を実施し、内容を検討する。 3. 研究活動（個人・共同）のを実施し成果を明確にする。 					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>クリティカルケアⅠ・Ⅱ：クリティカルケアⅠは必修で、Ⅱは選択科目である。急性期看護の基盤からクリティカルケア看護の基礎知識へつながるよう授業内容を検討した。療養支援実習Ⅲから課題別総合実習へ発展できるよう今後も調整する。</p> <p>研究方法論：担当はオムニバス形式で、学生個々の研究計画書作成に関する授業方法が課題となった。時間的な問題から個別指導の困難さがあるため、次年度はグループ学習とするなど方法論を変更する。</p> <p>看護研究：療養支援看護学領域（成人系）5名の学生を指導した。うち、2名が調査研究を3名が文献研究を行った。いずれも各自の関心から看護の探求へと学修できた。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた ③あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>・ 教育活動</p> <p>クリティカルケアⅠに関して、前年と同様の授業方法で行ったが、授業評価は低下している。国家試験内容は臨床的な問題が増加しているが、応用性が高い内容は学習する上で整理が困難で学生の混乱を招いている。基本的な急性期看護の展開が理解できるよう演習形</p>					

<p>式の授業へ変更していく。</p> <p>臨地実習では、並行して複数の学生を担当する機会も多い。学生個々の持ち得る力を判断し安全に効果的に実習が実施できるよう教育・指導の方法を再考していく。</p> <p>・研究活動</p> <p>研究テーマ:生命危機状態にある患者の身体機能を整える看護介入の臨床判断とその評価</p> <p>研究テーマの現状:文献検討中</p> <p>研究テーマ:一次救命処置の演習効果の評価に関する研究(共同)</p> <p>研究テーマの現状:研究計画作成中</p> <p>専門領域:急性期看護,クリティカルケア看護</p> <p>本年度の研究業績:</p> <p>・社会的活動等</p> <p>兵庫県看護協会「まちの保健室」ボランティア 平成27年11月</p> <p>地域交流センター2015年度前期公開講座:「キズの治癒を促す管理について」平成27年8月</p>
<p>次年度の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケアⅠ・Ⅱ:演習形式の授業に転換し、学習成果の評価を行う。 2. 課題別総合実習:クリティカルケア看護への関心を高め、臨地実習につなぐ。 3. 看護研究方法論:研究課題の選定等、個別の研究計画書作成 4. 研究(個人):理論枠組みの構築による研究計画書の作成 研究(共同):一次救命処置の評価に関する調査の実施。
<p>活動内容の補足</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本救急看護学会評議員:平成27年10月から 調査研究委員会委員、査読委員 2. 高校内進学相談会・模擬授業 兵庫県立八鹿高校、県立西宮北高校、県立須磨友が丘高校、県立伊川谷北高校、 兵庫県立神戸北高校、私立育英高校 3. 神戸常盤女子高校 看護学科体験授業3年生「看護を大学で学ぶ意味を考える」平成27年5月 1年生「フィジコを用いた身体診察」平成27年9月 オープンハイスクール看護技術演習体験 平成27年8月 4. 入試説明会 兵庫県看護協会進学説明会 平成27年7月 関西地区看護系学部・学科入試説明会 平成27年9月 その他、2件

教員名	谷口 由佳	所属学科	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	地域交流センター副センター長、学生委員、国家試験対策副委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護対象論Ⅲ(老年)、老年援助論、療養支援実習Ⅰ・Ⅱ、課題別総合				

	実習、生活健康論、生活健康論実習、基礎看護学実習、看護研究方法論、看護研究演習、看護活動基礎実習
担当科目コマ数	20.0
本年度の課題	教育活動：担当科目における教育内容および教育方法の充実 研究活動：計画通りの着実な遂行
本年度の目標・方針	教育活動：前年度の成果をふまえ、教育内容および教育方法のより充実を図る 研究活動：公費助成研究の計画的な実施
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>教育活動では、前年度の教育内容を見直し、学生の理解を促す教育方法の工夫に努めた。研究活動では、文部科学省科研費補助金（基盤C）の助成を受けている研究を計画通りに実施した。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>・教育活動</p> <p>いずれの担当科目においても、学生が理解しやすい授業を意識した。また、科目の目的、目標と照らし合わせ、この授業でおさえるべき内容は何なのかを常に考えながら、授業内容の精選に努めた。</p> <p>・研究活動</p> <p>研究テーマ：①高齢者の終末期ケアに携わる看護職を対象にした教育支援に関する研究、②高齢者の健康に関する研究</p> <p>研究テーマの現状：①は研究計画を洗練させ、実際の医療現場において看護職を対象に教育支援を実施した。②は本学テーマ別研究として、神戸常盤フォーラムにて成果を発表した。</p> <p>専門領域：老年看護</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（私立大学戦略的研究基盤形成支援事業）</p> <p><研究テーマ：科研基盤C（研究代表者）『意思疎通不可能な高齢者の終末期ケアに取り組む看護職への教育支援方法のモデルの開発』、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（共同）『災害対応を組み込んだ機動的サポートシステム（神戸常盤モデル）の構築』></p> <p>学会発表（ 回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>・社会的活動等</p> <p>① 兵庫県看護協会神戸西部支部まちの保健室委員長</p> <p>② はすいけディサービスへのまちの保健室活動</p> <p>③ 神戸市介護予防プログラムへの従事</p>

④ 本学地域交流事業への参画
⑤ その他（高齢者施設での講演、研修会の講師等）
次年度の課題
教育活動においては、今年度明らかになった課題の解決に向け、授業内容および方法の検討を継続する。研究活動においては、計画通り、着実に遂行する。

教員名	島内 敦子	所属学科	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	国家試験対策委員会、臨地実習委員会、就職委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	母性看護学概論、看護対象論Ⅳ、母性援助論、母子支援実習Ⅲ、課題別総合実習				
担当科目コマ数	23.5				
本年度の課題					
① 講義内容の精選 ② 神戸大学周産母子センター開催「ハッピーかるがもの会」の協働企画の充実と内容の拡大					
本年度の目標・方針					
① 講義内容の工夫と学生の主体的が学修支援を行う ② 学生主体の協働企画の内容を吟味し、充実を図った。					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容 ① 下記の教育活動により学生の主体的な学修の場を提供することができたと考える。 ② 神戸大学周産母子センター開催「ハッピーかるがもの会」の協働企画での学生の活動から、小児科外来看護師長より小児科外来への壁面協力の依頼があった。 学生自身も積極的な協力を試み、年3回壁面の作成を行うことができた。 目標達成度の評価：1. できた ② ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
b. 教員としての主な活動内容 ・教育活動 母性看護学概論から母性援助論、母子支援実習Ⅱまでつながりのある教育内容に徹底することに心がけ、学生が母性の対象や個に応じた看護援助について学習できるように講義、演習内容の充実を図った。 学生の主体的な学びを触発するために、看護対象論Ⅳでは生殖医療に関する倫理についてディベート、母性援助論ではロールプレイを取り入れた。このことにより学生自身が主体的学ぶ方法や喜びを感じる講義内容ができたと考える。これについては、学生からの授業評価においても好感触であった。 ・研究活動 研究テーマ：母性看護学における情意領域の育成を目指した教育内容の分析					

研究テーマの現状：日本看護研究学会 第29回近畿・北陸地方会学術集会 発表
専門領域：母性看護学
本年度の研究業績： テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ） <研究テーマ： > 学会発表（ 2 回） 学術論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） ・社会的活動等 ① 日本私立看護系大学協会、社会的事業にする事業部会委員 ② 甲子園短期大学 性教育講義 ③ 高大連携 明石南高校授業 1回（性教育）
次年度の課題
① 神戸大学周産母子センター「かるがもの会」の充実を図るとともに、同様の内容を実習病院にも開催できるような基盤を構築する。 ② 学生の主体的な学修支援を考え、学生の学習効果について測る方法を考える。

教員名	鵜飼 知鶴	所属学科	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試広報委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	基本看護技術Ⅰ・Ⅱ、生活健康論、看護活動基礎実習、生活健康論実習、基礎看護学実習(看護過程)、課題別総合実習、看護研究演習				
担当科目コマ数	19.0				
本年度の課題	教育活動：学生の主体的な学修支援 研究活動：研究の成果発表と外部資金の獲得				
本年度の目標・方針	教育活動：DVD及びデモンストレーション等を効果的に取り入れた基本看護技術の演習を組み立てる。 研究活動：療養通所介護における看護の実際に関する研究を継続する。				
主な活動内容	a. 目標達成に向けた活動内容 教育活動：DVDを活用した教育方法の実施、学生少人数を対象としたデモンストレーションの実施 研究活動：昨年度の結果を学会発表及び論文作成 今年度の療養通所介護事業所に関するデータ収集及び分析を実施 目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった b. 教員としての主な活動内容				

<p>・教育活動</p> <p>生活健康論では、授業内容を再考し、資料を精選することにより授業評価の点数が向上した。基本看護技術の演習では手元操作のわかにくい場面をDVDと少人数の学生を対象としたデモンストレーションの実施により学生の理解が深まった。</p> <p>・研究活動</p> <p>研究テーマ：多職種からみた療養通所介護の看護実践の成果と課題</p> <p>研究テーマの現状：データ収集終了し学会発表に向けて抄録作成及び論文作成</p> <p>専門領域：看護教育学 在宅看護</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（フランスベッドメディカルホームケア研究・助成財団）</p> <p>＜研究テーマ：多職種からみた療養通所器類の看護実践の成果と課題＞</p> <p>学会発表（4回） 学術論文（2編） 著書（冊）</p> <p>・社会的活動等</p> <p>兵庫県看護協会「まちの保健室」（本学拠点）</p> <p>兵庫県立東灘高校 講義(高大連携)「看護について」</p>
<p>次年度の課題</p> <p>教育活動：在宅看護に関する講義内容を精選し主体的に学ぶことが出来るよう工夫する。</p> <p>研究活動：昨年度から継続している研究の学会及び論文発表等により研究成果を発信する。</p>

教員名	阿 児 馨	所属学科	保健科学部 看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	危機管理委員・自己点検評価委員・就職委員				
クラス担任	3年次クラス担任	クラブ顧問			
担当科目名	基本看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護活動基礎実習、生活健康論実習、基礎看護学実習、課題別総合実習				
担当科目コマ数	19.4				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学生に良質のケアを保証するために教材研究を行い、授業や演習の授業準備を行う。 ・学生からの授業評価や基礎看護学領域の教員間で授業検討・評価を行っていく。 				
本年度の目標・方針	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究を行い、授業や演習の授業準備を行う。 ・主体的に取り組むことができる課題（思考を促進する学習活動）を検討する。 				
主な活動内容					

3. 社会活動：人々の健康とQOLに貢献できる活動を積極的に行う。
本年度の目標・方針
1. 教育活動：反省的実践家を育む方略を授業に取り入れる。また、環境を整えることができる。 2. 研究活動：平成26年度実施の研究成果が発表でき、共同研究が遂行できる。 3. 社会活動：人々の健康とQOLに寄与できるような活動が遂行できる。
主な活動内容
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>教育：基本看護技術Ⅲ（科目責任者）では、授業時間外でも技術練習が主体的にできるようシミュレーターを自由に使える環境を整えた（フィジコラボ開設）。また、授業内容のコアコンピテンシーが解るよう各単元修了後ミニテストを行った。結果、学生による授業評価では「学生自身の学習」：4.7「授業内容」：4.5「授業方法」：4.4「全体評価」：4.6と高い評価であった。さらに、単元を担当している基本看護技術Ⅰ、Ⅱではリフレクティブジャーナルを取り入れ反省的実践家を育む方略を実施した（評価未）。</p> <p>また、神戸市看護大学の非常勤講師として、看護技術学概論の授業を担当した。</p> <p>研究：テーマ別研究の成果を第30回日本保健医療行動科学会で発表した。また、神戸市看護大学との共同研究で、データ収集、分析、考察を行った。</p> <p>社会：本学公開講座、明石南高校、兵庫県看護協会、脳卒中研究会、植物園、東須磨あんしんすこやかセンターで「看護」「健康」に関する講演を行った。また、NPO法人神戸なごみの家主催神戸なごみカフェの本格的なオープンに向けて、運営委員として会議に参加した。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>・教育活動</p> <p>基本看護技術Ⅰ～Ⅲの全ての演習を担当し、基本看護技術Ⅰ「清潔の援助」の単元、基本看護技術Ⅱ「与薬」の単元、基本看護技術Ⅲ「呼吸器系フィジカルアセスメント」「循環器系フィジカルアセスメント」の単元の講義を担当した。</p> <p>・研究活動</p> <p>研究テーマ：「看護技術学習用オリジナルビデオ教材の活用状況とその有用性」 研究テーマの現状：データ収集、分析を終え、現在は考察をまとめている段階である。</p> <p>専門領域：看護技術学</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研（<u>その他の外部資金</u>）神戸市看護大学共同研究） 研究テーマ：「看護技術学習用オリジナルビデオ教材の活用状況とその有用性」 学会発表（1回） 学術論文（1編） 著書（0冊） 発表→平成26年度テーマ別研究「肩こり感を体験している成人女性に対するヨガの効果」を 日本保健医療行動科学会 第30回学術集会（ポスター）で発表した。於：京都看護大 論文→「ビデオ教材の提供による参加型e-Learningシステムの開発」共著 神戸市看護大学紀要Vol. 19. 2015</p> <p>・社会的活動等</p>

<p>【講演】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県看護協会：新人看護職員集合研修「安楽の技術を考える・体験する」 ・第4回脳卒中ケア研究会（シンポジウム）：「看護と補完代替療法」 ・脳卒中研究会（脳 know 実践セミナー）：「身体と心にとどく癒しの看護技術」 ・東須磨あんしんすこやかセンター（介護リフレッシュ教室）：「アロマでリフレッシュ」 ・神戸布引ハーブ園：アロマを用いた健康管理「森の香りの活用」 ・神戸布引ハーブ園：アロマを用いた健康管理「認知症予防としてのアロマセラピー」 ・本学地域交流センター後期公開講座：「セルフメディケーションとしてのアロマセラピー」 <p>【非常勤講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸市看護大学：看護技術学概論「看護技術の拡張－看護と補完代替療法－」の授業を担当。 ・兵庫県立明石南高校（高大連携）：「看護入門」で計5回の授業を担当 <p>【ボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォレスト垂水弐番館：アロマサークルの学生と入所者にアロマハンドマッサージを提供した。 ・本学ミニ健康フェア：アロマサークルの学生と地域住民にアロマハンドマッサージを提供した。 ・本学健康フェア：アロマサークルの学生と地域住民にアロマハンドマッサージを提供した。 ・本学大学祭：アロマサークルの学生と地域住民にアロマハンドマッサージを提供した。 ・NPO 法人神戸なごみの家主催神戸なごみカフェ：運営メンバーとしてミーティングに参加した。
<p>次年度の課題</p>
<p>1. 教育活動：反省的实践家を育む方略の考案と実施。</p> <p>2. 研究活動：テーマ別研究の論文公表。新たな研究の計画。</p> <p>様式3 動：人々の健康とQOLに対する貢献。</p>

教員名	中田涼子	所属学科	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員、国際交流センター、KTUセンター				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	公衆衛生看護展開論演習Ⅰ、公衆衛生看護展開論Ⅱ、公衆衛生看護展開論演習Ⅱ、健康教育の理論と方法、公衆衛生看護実習Ⅰ、公衆衛生看護実習Ⅱ、看護研究、看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	18.7				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・保健師養成課程の実習その他運営 ・各種委員会やセンターにおける役割の遂行 					
本年度の目標・方針					
<ul style="list-style-type: none"> ・保健師養成課程として完成年度を迎えるため、実習その他の運営を円滑に進める。 ・保健師養成課程1期生の保健師国家試験100%合格を目指す。 					
主な活動内容					

<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>保健師養成課程選択者が4年次となり講義と実習両方を円滑に進めるため、日程調整等が必要であった。また国家試験100%合格を目指して学生国試委員と話し合う機会をもち学生の学修支援を行った。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた ②) ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <p>公衆衛生看護実習Ⅱが新たに開講され、実習Ⅰでの学びのつながりや違いを意識して臨地指導者の方々と話し合いながら実習内容を組み立てた。さらに4年生に新たに開講した健康教育の理論と方法では、実習での実践に生かせるよう健康教育の理論を講義し、方法として健康教育の企画書の書き方を通して必要性和根拠をしっかりと考えられるよう取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動 <p>研究テーマ：国際まちの保健室の開設と運営による在日外国人の健康促進プログラムの開発</p> <p>研究テーマの現状：データ分析、論文作成</p> <p>専門領域：国際地域看護、公衆衛生看護</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>学会発表（ 1 回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的活動等 <p>兵庫県看護協会「まちの保健室」ボランティア（東播・西播）</p>
<p>次年度の課題</p> <p>保健師養成課程の円滑な運営と課題に向けた調整</p>

教員名	西出 順子	所属学科	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	国家試験対策委員会・臨地実習委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	精神看護学概論、精神看護特性論、精神援助論				
担当科目コマ数	22.6				
本年度の課題	看護学科通信制課程から保健科学部看護学科への移動にともない、通学生の特性に応じた授業内容の構築を図る。				
本年度の目標・方針	<p>1. 通学生の理解力・思考能力、汎用的能力を把握する。</p> <p>2. 精神看護学に関する学習プログラムを構築する。</p>				
主な活動内容					

a. 目標達成に向けた活動内容	
3年時の精神援助論にて授業後毎回コメントペーパーを配布し、意見や感想から興味や関心の向きやすいところや着目しやすいところ等の把握を行った。また、健康支援実習では、患者像の把握やアセスメントに授業内容が活用されているか評価を行い、授業内容を見直した。	
目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった	
b. 教員としての主な活動内容	
・教育活動	
汎用的能力向上をねらいとしアクティブラーニングのひとつInquiry-based Learningを授業に取り入れたが、授業全体として、講義形式の受け身的な授業が多かったことは否めない。その結果、実習では座学で教授したことがほとんど活用されていない現状があった。来年度の授業では相互交流の多い思考・発信型の方法を適宜取り入れ、主要な理論の習得については授業の中で理論を使い考え想像する時間を多く設けたい。	
・研究活動	
研究テーマ：①「在宅看護における対応困難事例、暴言、暴力の現状と対策に関する研究」（平成24年度科学研究費助成金：基盤研究C課題番号24593282）	
②患者—看護師関係 治療的関わり	
研究テーマの現状：①全国の訪問看護師に対する対応困難事例に関する質問紙郵送調査の実施、分析を行った。分析結果を関連学会で発表予定である。②文献講読中	
専門領域：精神看護学 臨床心理学	
本年度の研究業績：	
学会発表（ 0 回） 学術論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）	
・社会的活動等	
兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科 非常勤講師 「ヘルスカウンセリング」8コマ	
次年度の課題	
1. 授業方法の工夫；相互交流の多い思考・発信型の授業方法の有効活用。	
2. 研究；研究テーマを絞り、具体的に計画を立て、すすめていく。	

教員名	木村 聡子	所属学科	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	高大連携				
クラス担任	3年Aクラス担任	クラブ顧問			
担当科目名	精神看護援助論, 精神看護特性論, 活動基礎実習, 課題別統合実習, 健康支援実習Ⅲ, 看護研究				
担当科目コマ数	29.4				
本年度の課題					
精神看護学への興味・関心を向ける教授活動が行える					
本年度の目標・方針					

担当科目名	母性援助論、母子支援実習Ⅲ（母性）
担当科目コマ数	37.0
本年度の課題	初めて大学教員生活を始めるに当たり、教育・研究活動へのイメージ作りが不十分である。
本年度の目標・方針	学科内を中心に、本校の教育・研究活動に意欲的に取り組み、全体像を理解する。
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 先輩教員と共に、種々の学内活動に参加し、自己理解を深める。 <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育活動 母性援助論では、島内講師の指導のもと、演習・資料準備、沐浴演習評価等に携わることで講義の全体像把握に努めた。母子支援実習Ⅲ（母性）では、学生の学習過程や、それを円滑に進めるための教員としての役割について、臨地で学んだ。 研究活動 研究テーマ：①母性看護学 ②へき地看護 研究テーマの現状： ① 分娩見学実習における学生の学びに関する研究に関して、準備中である。 ② へき地看護に関するデータ収集を、島根県隠岐諸島に出向いてスタートした。 <p>専門領域： 本年度の研究業績： その他の外部資金（公益財団 在宅医療助成 勇美記念財団 2015年度（後期）一般公募「在宅医療研究への助成」）獲得 ＜研究テーマ：へき地で勤務する看護職者に関する研究－都市部から着任してきた人たちの経験と学びのプロセスに着目して－＞ 学会発表（ 2 回） 学術論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） <ul style="list-style-type: none"> 社会的活動等 本学まちの保健室活動（子育て支援）に2回協力 </p>
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 新1年生Bクラスの担任として、新入生への目配りが出来るように心掛けたい。 母性援助論では演習プログラムの組み立て、母子支援実習Ⅲ（母性）では、認知的、情意的、精神運動的領域がバランスよく学び取れるよう、学生個々に合わせて支援したい。

教員名	有田弥棋子	所属学科	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	学生委員				
クラス担任	無	クラブ顧問	無		

担当科目名	1年：看護活動基礎実習 2年：療養支援実習Ⅰ（老年） 3年：基礎看護学実習（看護過程） 療養支援実習Ⅱ（疾病・障害を持つ人の看護） 療養支援実習Ⅲ（クリティカル） 4年：課題別総合実習
担当科目コマ数	29.8
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・療養支援領域（成人看護）へ異動となり、本年の演習や講義の補助をベースに、学生の教育内容を確認しながら実習指導を展開する。また、実習を通して学生のニーズを理解して主体的な学習ができるよう、指導者研修での学びを参考に実践する。 ・研究では、現在取り組んでいる活動を前向きに取り組み、学生の研究活動を支援するためにも研究手法も含めた知識を得る。
本年度の目標・方針	<ul style="list-style-type: none"> ・本年の演習や講義の補助を通して、学生の教育内容を確認しながら指導につなげる ・研究演習を通して、学生の研究活動を支援するためにも研究手法も含めた知識を得る。
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>◆教育活動では、実習中の学内演習を通して術後患者の観察をおこなえるように演習方法に仕掛けをつくる。演習前に、教員自身が看護過程を展開してから問題点を明らかにして臨んだ。また、深部静脈血栓について指導案を作成して演習に臨んだ。周手術期における観察についての研究論文を参考にし、一般的な学生の観察の弱い点を注意しながら、（模造紙をつかって、学生達でまずは考える）そして、主体的に学ぶために、できるだけ患者の術後の状況をイメージできるように積極的に説明を行なった後、グループワークを実施した。できているところをフィードバックすることで、学生の興味関心度を高め、研究論文の一般的な学生の弱点と比較しながら自分たちの弱点と強みを確認するようにして情意的領域への刺激をおこなった。</p> <p>学術集会での、模擬授業を参考に実施を試みた。</p> <p>◆研究活動では、9月までに、テーマ別研究のデータ分析とポスター作製を行い10月の常盤フォーラムで発表した。11月に看護教育学会論文が掲載された。各所属学会に参加した。科研費についての書籍を購入し読み、科研費への申請をチャレンジしようとした。まだ結果はでていない。</p> <p>目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 aと同じく ・研究活動 aにプラスして、学生との関わりは途中で終了している。学生が研究方法を変更して、困っていたが研究演習では実習が9月からスタートしたたことで終了した。 <p>研究テーマ：①インシデントを経験した看護学生へのデブリーフィングの教育的意味に</p>

<p>関する研究 ②高齢者健康体操に参加している地域在住高齢者の現状と継続参加を可能にする要因の検討</p> <p>研究テーマの現状：①については、論文が日本看護教育学会に掲載された。②については、分担研究者として9月までに、テーマ別研究のデータ分析とポスター作製を行い10月の常盤フォーラムで発表した。</p> <p>専門領域：療養支援領域（成人系）</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>学会発表（ 1回） 学術論文（ 1編） 著書（ 冊）</p> <p>・社会的活動等</p> <p>①健康フェア： 健康相談 禁煙指導</p> <p>②蓮池デイサービス：高齢者の脱水予防の集団指導 アクティビティ（手芸）</p>
<p>次年度の課題</p> <p>・演習の組み立てを通して、認知的領域・情意領域の中核目標を立て学生の知識と思考の成長を確認できる評価を実施する。</p> <p>・学生のレジネスを知り、学生を中心として指導者と教員の関係性の構築を促進できるように対応する。</p>

教員名	松岡 真菜	所属学科	看護学科	職名	助手
委嘱委員・職務	健康管理室・地域交流センター				
クラス担任	4年Aクラス副担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	療養支援実習Ⅱ・Ⅲ、課題別総合実習、看護活動基礎実習、基礎看護学実習				
担当科目コマ数	28.2				
本年度の課題	・学内演習、臨地実習などの教育活動を理解する。				
本年度の目標・方針	<p>・教育活動に必要な準備を行う事が出来る。</p> <p>・指導のもと、学生に対する指導を行う事が出来る。</p>				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>・オリエンテーションや指導を受けながら、講義や演習、臨地実習に関する準備を行い、学生指導にあたった。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>・教育活動</p> <p>療養支援実習では、学内演習での学生の学びが、臨地の現象と結び付き看護展開できる</p>				

ように指導を受けながら関わり、学びをつなげることが出来た。また対象患者の状態と学生の抽出した焦点の妥当性を図る事も出来た。また、学習が困難な状況の際は、学生が困難に感じていることを共有し、問題を明確にし、解決方法を見出すように支援することができた。

- ・研究活動

研究テーマ：心肺蘇生法 学生の学習効果
 研究テーマの現状：検討中
 専門領域：成人看護学
 本年度の研究業績：
 テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）
 <研究テーマ： >
 学会発表（ 回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）

- ・社会的活動等

神戸常盤大学まちの保健室活動

次年度の課題
 教育活動に必要な準備を行う事が出来る。
 自己研鑽や探究する能力の育成

教員名	井上 裕子	所属学科	看護学科	職名	助手
委嘱委員・職務	なし				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	母子支援実習Ⅰ、Ⅱ 健康支援実習Ⅱ 課題別総合実習 看護活動基礎実習 基礎看護学実習				
担当科目コマ数	26.4				
本年度の課題	小児看護について、自ら学びを深める				
本年度の目標・方針	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の準備や演習における事前の準備を指導の下、確実に行うことができる。 ・臨地実習における学生に対する指導について、指導の下、実践することができる。 				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容 講義には全て参加し、そこから臨地実習において学生に指導するためのポイントを学ぶようにした。 目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <p>講義の実技演習では、学生が実施する点滴の管理や小児のフィジカルアセスメント</p>				

3. 教育学部 こども教育学科

教員名	後藤 晶子	所属学科	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学部長、学科長、学生相談室室長、教職支援センター長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	発達心理学A、発達心理学B、保育内容（人間関係）、保育実践演習、卒業研究、人間関係論				
担当科目コマ数	8.2				
本年度の課題					
<ol style="list-style-type: none"> ① 完成年度の学科運営を滞りなく遂行する。 ② 教育課程を検証してきた結果として、新教育課程を構築する。 ③ 一期生の就職支援を、教職支援センター、キャリア支援課と連携を図り、学生の目指す進路を確保する。 ④ 学生相談室の運営を維持発展させる。 ⑤ 次年度以降の学科の人員体制を整える。 					
本年度の目標・方針					
<ol style="list-style-type: none"> ① 完成年度を迎え、学科運営を滞りなく遂行する。 ② 完成年度以降を見据え、教育課程を再構築する。 ③ 一期生の就職を強力に支援し、目指す進路に巣立つ結果を得る。 ④ 学生相談室の運営を適切に遂行する。 ⑤ 平成28年度からの学科の人的組織を整備する。 					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科教員と連携し、学科の諸業務が適切に遂行されるようまとめた。 ・ 新カリキュラムを構築し、コース制を導入する体制を整えた。 ・ 教職支援センター事務室、キャリア支援課と連携を図り、就職支援・採用試験対策の強化を図り、一期生の目指す進路にほぼ着地させることができた。 ・ カウンセラー、キャリア支援課と連携し、カウンセリングルームの活性化を図った ・ 学科教員の昇任人事、学外からの公募を行い、体制を少し整えることができた。 <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育活動：学生の質に合うように授業の組み立てを検討したが、さらなる検討の必要がある。またピアヘルパー試験対策として、全学年にわたる希望者対象にそれぞれ計24回の補習を実施した。 ・ 研究活動 <p>研究テーマ：カウンセリングの枠組みの検討、新人教員の教育力の向上のプロセス 研究テーマの現状：スーパーバイズの実践、新人教員の実践の分析 専門領域：臨床心理学、発達心理学 本年度の研究業績：学会発表（1回）、学会参加、研修会参加</p>					

教員名	上月素子	所属学科	教育学部こども教育	職名	教授
委嘱委員・職務	学科就職委員会委員長・子育て支援センター「子育て広場えん」センター長・臨地実習委員会委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	ハローベビー部 食育研究会（同好会）		
担当科目名	保育原理・保育内容造形表現・保育内容総論・こどもと造形・基礎実習Ⅰ・基礎実習Ⅱ・キャリアの基礎Ⅰ・キャリアの基礎Ⅱ・キャリアの基礎Ⅲ・保育実践演習・生涯学習論・キャリアプロデュース・保育教育メソッド・卒業研究				
担当科目コマ数	12.4				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・4年生大学完成年度における就職指導の在り方を整理し集大成するとともに、一期生の専門職種への就労支援に向け、全力を尽くす。 ・4年生の新規科目「キャリアプロデュース」「生涯学習論」「保育メソッド」の授業内容を充実させ、一期生の最終学年の学修を実りあるものとする。 ・大学教員としての最終年度にあたり、健康に留意し、保育者養成に心を尽くす。 					
本年度の目標・方針					
<ul style="list-style-type: none"> ・1・2・3・4期生が期待を持って大学生活を過ごせるような講義内容の充実と専門職業人として巣立つための教育環境の工夫を行う。 ・1期生ひとりひとりが希望の職種に就職できるよう具体的な支援を行うとともに、2期生以降も恒常的に短大時代からの良好な就職活動が維持できる体制作りを行う。 ・子育て支援センターにおける世代間子育て支援についての実践と研究を推進する。 					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>①長年築いてきた保育現場との協力関係と研究を、講義に反映させ内容充実を図るとともに、学科独自の最終学年科目「生涯学習論」「キャリアプロデュース」を有効に活用し、社会への滑らかな接続が果たせるよう努める。</p> <p>②本年度より本格実施の幼保連携型認定こども園について、1期生の就職先として積極的にとらえ、保育内容及び保育者の留意すべき点について、就職後に不足が生じないよう補足講義を行い指導する。</p> <p>③4年制1期生の進路については、保育領域（公立保育所・民間幼稚園・認定こども園・保育園）社会福祉領域（児童福祉施設・障害者施設）小学校、一般のそれぞれの分野別に適切な指導を行い、一人一人が納得して希望の職種への就職を果たし社会に巣立てるよう努める。公立採用試験合格に向けた特別指導、各学生の実態把握に努め、学科の就職ガイダンスを企画実施するとともに個別の細やかな対応も行い、各自の進路選択が確かなものになるよう支援する。</p> <p>④子育て支援センター「えん」の職員体制の整備と強化を図るとともに、子育て支援のあり方についての現状分析を行う。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった ①②③に関しては1. できた ④に関して3. あまりできなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p>					

・教育活動 講義科目は、毎回レジュメ及び資料を作成し、学生の毎時間の反応（疑問質問）を確認し実態を把握し内容の改善を図る。演習科目は、理解度に応じた個別指導を行う。オムニバス科目は、学生の理解を深めるよう教員間の連携を図り内容が有機的伝わる工夫を重ねる。

・研究活動 研究テーマ：保育者養成・こどもと造形表現・子育て支援・世代間交流
研究テーマの現状：

- ① 新任幼稚園教諭の教師力の養成 共同研究 H27年度保育学会で発表
- ② 兵庫教育大学・神戸大学教員との共同研究の継続として、兵庫教育大学のシンポジウム「子育て親育ちを促す支援者の役割」にシンポジストとして参加(H27年7月18日)し、『文科省特別経費—高度な専門職業人の養成や専門教育の充実—事業第二年度報告書』を共同執筆する。

専門領域：保育者養成・子育て支援・子どもの表現・保育環境

本年度の研究業績：

- ① **テーマ別研究**・ジョイント研究・科研・その他の外部資金
＜研究テーマ：＞新任幼稚園教諭の教師力の養成
- ② **テーマ別研究**・**ジョイント研究**・科研・その他の外部資金
＜研究テーマ：＞大学の機能強化としての就学前教育専門職（仮称）養成の高度化と幼小連携を含めた総合的カリキュラム開発(兵庫教育大学 就学前教育カリキュラム研究開発室研究協力員)『平成27年度文部科学省特別経費＜高度な職業人の養成や専門教育機能の充実＞事業 第二次実施報告書』（H28年3月発行）
- ③ **テーマ別研究**・**ジョイント研究**・科研・その他外部資金
＜研究テーマ＞世代間交流としての子育て支援に関する研究—祖父母世代の意識調査から—(兵庫教育大学研究紀要 第47巻11～18頁 H27年9月30日発行)
学会発表（1回） 学術論文（1編） 研究論文集（1編）

・社会的活動等

《兵庫県内の公共団体関連》兵庫県保育協会創意工夫展審査委員・神戸市こども青少年課ユースステーション運営管理業者選考会選考委員・兵庫県保育協会淡路支部認定こども園関連研修会講師

《神戸市関連》こども家庭局ユースステーション指定管理者審査委員会委員・こども家庭局「大学付属子育て支援事業実務者会議」委員

《長田区関連》・長田区こども家庭支援ネットワーク連絡会実務者会議委員・長田っ子未来プロジェクト委員・長田区UD研究会会員・長田区子育て支援者スキルアップ講座講師・長田区「遊びマエストロ」研修会講師・地域人材支援センター5周年記念行事「ロゴ・キャラクター」デザイン選考審査委員

《その他会員等》大学コンソーシアム「地域子育て支援拠点事業に関わる大学間連絡協議会」会員・西神戸小児心身症研究会会員・海外子女教育国際理解教育研究会会員・こどもとメディア研究会会員・日本保育学会会員・日本乳幼児教育学会会員・日本子育て学会会員・全国大学造形美術教育教員養成協議会会員・兵庫県国際交流協会会員・ECHO（神戸帰国子女親の会）代表・坂田福社会理事長（5月就任）他

教員名	瀬川 和子	所属学科	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	玉田学園評議委員 運営委員会委員 入試広報委員会委員長 合否判定部会委員長 高大連携委員会委員 学内AC委員会委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	器楽ボランティア部		
担当科目名	音楽A I・II・III、教科指導法(音楽)、キャリアの基礎 I・III 保育・教育内容研究(こどもと音楽)、保育実践演習、保育・教育内容研究(ピアノ実践奏法)、卒業研究				
担当科目コマ数	14.8				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育：小免関連科目の教授法と教材に関する検討 ・研究：研究時間の捻出と継続的な取組み 					
本年度の目標・方針					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育：小免関連科目および採用試験内容を確認し指導法を検討する。・担当学生一人ひとりと向き合い、各学生の学習上の問題点とその解決法を共に探すこと ・研究：研究を何らかの形にまとめ発表する 					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育：小免関連科目の指導資料作成。E4科目の指導計画検討。・研究：楽曲分析 目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた③.あまりできなかった 4.できなかった <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・＜教育活動＞・小免関連科目の講義では、作成資料の内容と配置の見直し。 ・H.28年3月「ピアノ初心者入門講座」3回実施 ・＜研究活動＞・自分なりのペースでの取り組みであった。楽曲分析を進めることで理解を深め、構成に工夫したプログラムを組むことができた。・教材については、ピアノ初心者が増加傾向にある一方、経験者もあり、幅広いグレードに対応できる基礎力強化内容の検討を重ねた。 <p>研究テーマ：ピアノ演奏(デュオ・室内楽)・教材開発・指導法開発 研究テーマの現状：楽譜収集および楽曲分析 専門領域：ピアノ 芸術 音楽</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金 ()</p> <p>＜研究テーマ： ></p> <p>学会発表 (1 回) 学術論文 (0 編) 著書 (1 冊)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的活動等 ・全国大学音楽教育学会関西地区学会監査・H.27年5月附属ときわ幼稚園 ときわキッズ講師・H.27年9月神戸常盤女子高等学校保育コース講師・県内高校ガイダンス 本学・学部・学科についての説明広報・部活顧問として、12月学外演奏会部員引率 					
次年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ初心者が増える傾向にあるため、特に「音楽I」の前期習熟度の向上 					

<ul style="list-style-type: none"> ・小免関連科目の教授法の改善、および教材研究 ・研究時間の確保
--

教員名	藤本由佳利	所属学科	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	広報紙編集委員長、学生委員会副委員長、就職副委員長				
クラス担任	1年生	クラブ顧問	美術部		
担当科目名	図画工作Ⅰ・Ⅱ、教科指導法（図画工作）、キャリアの基礎Ⅲ、保育実践演習、卒業研究				
担当科目コマ数	11.8				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の充実 ・実習授業の充実と小学校免許状関連の授業をより実地的なものにする工夫 ・一期生のキャリア支援 ・作品制作 					
本年度の目標・方針					
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な進度の学生への対応 ・補充授業時間の確保 ・1期生の希望進路の達成への支援 ・一般社団法人 関西二紀展、二紀展への作品制作と出品 					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間授業計画を緻密に立てた ・補充授業時間をとった ・就職フェアへの参加、就職の相談や模擬面接の実施を行った ・関西二紀展、二紀展へ出品した <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <p>1年生担任として面接等を通して、学生支援・理解につとめた。 卒業研究・教科指導法の補充授業時間を多くとった。 小学校免許状関連授業の充実を目指し、現場見学および現役教員からのレクチャーを受けた。 美術科教育学会に出席し、研修を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動 <p>研究テーマ：平面作品の制作 研究テーマの現状： 2015. 6 関西二紀展 大阪市立美術館（目録）</p>					

2015. 10 二紀展 国立新美術館 (図録) 専門領域：現代美術 本年度の研究業績： テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金 () <研究テーマ： > 学会<展覧会>発表 (2回) ・社会的活動等 A-21 ネパール地震復興支援展覧会 2015/8/28-9/2 Gallery キットハウス 2015/10 神戸常盤女子高等学校 進路講座講師 障害者生活介護事業所 たまも園 新築に伴う作品寄贈
次年度の課題 ・新担当科目の授業内容の充実 ・二期生のキャリア支援 ・作品制作と発表

教員名	大森雅人	所属学科	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教務委員長、教職支援センター、学内AC委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	情報処理Ⅰ、情報処理Ⅱ、保育・教育内容研究H (科学するところ)、教育と情報、保育実践演習、電子コミュニケーション、教育方法の研究、コンピュータリテラシー				
担当科目コマ数	10.0				
本年度の課題					
こども教育学科の学務に、より貢献できるように努力する。 科研費の助成を受けて取り組んでいる研究を、積極的に推進する。					
本年度の目標・方針					
<ul style="list-style-type: none"> ・より高い教育効果が得られる教育方法の検討を実施する。 ・学科将来計画の完成に貢献して、学科をより充実させるように努力する。 					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・科研費研究の一環として、教育方法の開発と実践、評価に取り組んだ。 ・完成年度に向けた学科の将来構想の一環として、カリキュラム改正に取り組んだ。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
b. 教員としての主な活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 教育効果の向上を目指して、ICTを活用した実践を行った。用いたのは、LMS (manaba)、タブレット端末、電子黒板、クリッカー、デジタル教科書等で 					

<p>あった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究活動 ● 研究テーマ：高等教育における教育方法の開発 ● 研究テーマの現状： <ul style="list-style-type: none"> ▶ 科研費による研究の最終年度として、開発した学習環境を用いて「科学するこころ」の育成を目指した授業の開発と実践を行い、その教育効果に関する検討を行った。 ● 専門領域：教育方法学、教育工学、幼児教育学 ● 本年度の研究業績： <ul style="list-style-type: none"> ▶ テーマ別研究・ジョイン（研究・科研・その他の外部資金（ ）） ▶ <幼児期に求められる科学教育が実践できる保育者を養成する教育に関する研究> ▶ 学会発表（ 2 回） 学術論文（ 編） 著書（ 1 冊） ・ 社会的活動等 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 平成27年度兵庫県国公立幼稚園阪神地区PTA 連絡協議会研修会講師 ● 第8回「兵庫の保育を考える会」分散会リーダー、
<p>次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こども教育学科に導入したコース制に関して、円滑な運営と教育効果の向上を目指す。 ・ 担当授業の教育効果向上させるための研究をさらに充実させる。

教員名	橋本 好市	所属学科	教育学部こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試広報・就職・臨地実習・学内AC・E科将来構想・卒業研究 他				
クラス担任	無し	クラブ顧問	野球部・ハローベビー部		
担当科目名	社会福祉・児童福祉・相談援助・社会的養護・施設実習指導Ⅰ・施設実習Ⅰ・施設実習指導Ⅱ・施設実習Ⅱ・保育実践演習・基礎実習Ⅰ・基礎実習Ⅱ・キャリアの基礎Ⅱ・卒業研究				
担当科目コマ数	12.7				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科にとって初めての卒業研究が完成する。この科目の滞りない運用を果たす。 ・ 学科の完成年度における就職率の向上及び希望就職先への就労を可能とする取り組み。 ・ 施設実習形態を完成させる。 ・ 新カリ作成及び旧カリとのソフトランディングに向けた取り組み。 				
本年度の目標・方針	<p>本学及び所属学科の今後あり方について、社会的現状と周辺競合大学の状況を分析し、本学が生き残ることができるよう先手を打つ準備をする。</p>				
主な活動内容					

a. 目標達成に向けた活動内容
 学科業務及び科研費、個人的研究とのバランスを考慮した行動を心がける。

目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 教員としての主な活動内容

- ・教育活動
 保育士養成校と社会福祉関係連盟組織との人材育成への取り組み。
 担当科目がおおいため、その運用と所属学科学生に適した教授方法・内容を工夫し、就職へと繋げる。
- ・研究活動
 研究テーマ：保育士の専門性からみた社会的固有性としての保育ソーシャルワークの意義と可能性
 研究テーマの現状：
 3年間研究の科研であり、2年目を迎えようとしている。保育所への調査及び海外視察等の準備に入っている。
 関係本の出版、学会等で発表申請済み。

専門領域：障害福祉、社会的養護、保育ソーシャルワーク等

本年度の研究業績：

テーマ別研究・ジョイント研究・**科研**・その他の外部資金（ ）
 <研究テーマ：保育士の専門性からみた社会的固有性としての保育ソーシャルワークの意義と可能性>

学会発表（ 8回） 学術論文（ 編） 著書（ 5冊） その他（ 3編）

- ・社会的活動等
 尼崎市子ども子育て審議会（部会委員長）、社会福祉法人理事・監事、社会福祉施設スーパーバイザー、職員研修会講師 他多数

次年度の課題

こども教育学科が完成年度を無事に迎えることができ、就職率もおおむね良好に終えることができた。新入生からは新カリがスタートする。したがって、新・旧カリの二本で学科運用をしなければならないことから、学科業務の適正な運用を図りつつ、個人研究（特に科研を進めること）との両立を果たすことができるよう心身共に健全にありたい。

教員名	井上 文雄	所属学科	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	こども教育学科臨地実習委員会委員長 就職委員 ボランティア委員				
クラス担任	2年Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	いのちのふしぎ、小学校実習、保育・教育内容研究G、課題別実習				
担当科目コマ数	3.2				

教員名	多田 琴子	所属学科	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員会、臨地実習委員会、就職委員会、教職支援センター				
クラス担任	1年B組	クラブ顧問	なし		
担当科目名	・幼稚園実習Ⅰ・教育課程総論A・教職論・基礎実習Ⅰ・保育内容環境 ・基礎実習Ⅱ・保育実践演習・幼稚園実習Ⅱ・保育指導法・				
担当科目コマ数	12.0				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・保育という営みを、授業や実習、模擬保育等を通して学生が体感できるようにする。 ・保育者の職能形成に寄与する。 					
本年度の目標・方針					
<ul style="list-style-type: none"> ・実習や模擬保育等を通し、学びを実感できる授業展開を工夫する。また3回生の保育実践演習においては、保育現場の実情把握と大学での学びを融合させる。 ・実践に寄与する研究パラダイムのあり方を模索する。 					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容					
①幼稚園実習Ⅰ、保育内容環境、保育実践演習において、グループ毎に模擬保育を行い、幼児理解と保育計画が一体であること、グループで協働する意味を伝えた。					
②本学附属幼稚園の2年目教員の成長を促すプログラムに参加した。また、同、園内研修に参加し（六回）、保育の向上に参加した。					
目標達成度の評価：1.できた ②ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった					
b. 教員としての主な活動内容					
・教育活動					
①幼稚園実習Ⅰ・保育内容環境・保育指導法・保育実践演習において模擬保育を設定し、学生の体感的学びが実践力につながる授業展開をした。また、指導案作成においては、個または模擬保育担当グループと複数回の事前指導を行い、保育のねらいや内容を明確にすることや、指導の手順や準備物の相談など、実際の保育所実習や幼稚園実習で各自が一人でおこなえるように応答的対応を行った。					
②授業の最初に保育者・教師になる自覚を促す「今日の言葉」を、一学年では教育課程総論A、二学年では保育内容環境、三学年では保育指導法において提示し、子どもの前に立つ自分を内省する時間を設けた。					
・研究活動					
①昨年度に引き続き、テーマ別研究助成を頂き、本学附属幼稚園の三年目教員の職能形成を図るかかわりをした。1年間の継続保育観察（ビデオ撮影し逐語をおこす）し、参与観察の気づきをフィードバックした。					
②平成25年度の研究のまとめとして、日本保育学会で発表した。また、本学の学内学術フォーラムにおいても、研究発表を行った。さらに二年間の研究を本学の紀要にまとめて発表した。					
③主催している自主研究グループの研究の有り様を、子ども実践学研究会（保育・福					

<p>祉・教育学・教科の研究職と保育実践者がユニットを組んで四半期に一度程度の例会で行っている研究会)において発表し、実践知と学問知の対等な協同研究を模索している。また、同研究会の研究発表大会を12月20日に開催し、シンポジウム「子どもの生活経験を広げ深める教材や環境」をコーディネートした。</p> <p>④姫路市立幼稚園の自主研修にオブザーバーとして参加し、姫路の幼児期の教育向上に参与する。平成28年3月5日に幼小接続期における数量・図形についてのシンポジウムを姫路新算数研究会と合同で開催した。</p> <p>研究テーマ：保育者の職能形成／幼児期にふさわしい生活を支える保育の創造 研究テーマの現状：研究対象者と研究者の良好な関係の元継続参与観察、 専門領域：幼児教育 本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ） <研究テーマ：3目幼稚園教諭の職能形成をはかる研究者のかかわりについて—継続研究—></p> <p>学会発表（ 1 回） 学術論文（ 1 編） 著書（共著 冊）</p> <p>・社会的活動等</p> <p>2015.04.29（火）上郡町西光寺初参式講師 2015.06.09（火）相生市立あおば幼稚園園内研修講師（以降3回） 2015.08.22（土）姫路市立幼稚園自主研・姫路市新算数研究会合同研究会講師 2015.08.24（月）～25（火）虎の穴研究会講師 2015.08.25（火）日本乳幼児教育学会運営委員会（以降月1回） 2015.11.05（木）・24（火）・12.1（火）神戸市指定（西野）幼稚園研究会講師 2015.11.19（木）姫路市立曾左幼稚園杉の個教室講師 2016.03.05（土）姫路市立幼稚園自主研・姫路市新算数研究会合同研究会講師 ひかりのくに異年齢カリキュラム編集委員会（毎月1回） 姫路市立幼稚園自主研修会オブザーバー（毎月1回） 高校での模擬授業（2回）</p>
<p>次年度の課題</p> <p>・公立幼保就職に向けて、就職委員として役割を果たす。 ・実践に寄与する研究パラダイムの構築をめざし、保育の実践を「学」にする取り組みを進める。</p>

教員名	笹井隆邦	所属学科	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試問題作成員・入試広報委員・個人情報保護委員会・危機管理委員会				
クラス担任	3年A組 学年主任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	生物と環境・地球環境論・地球と環境・コンピュータ演習Ⅰ・コンピュータ演習Ⅱ・理科・保育・教育研究内容G・卒業研究 生物（通信）				

担当科目コマ数	9.0
本年度の課題	
1期生をうまく軌道に乗せるためこまめに指導する。	
本年度の目標・方針	
学生たちを野山に連れ出して自然に触れてもらう。	
主な活動内容	
a. 目標達成に向けた活動内容	
目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった	
b. 教員としての主な活動内容	
・教育活動	
学生による授業評価：担当科目のカテゴリー別評価（授業内容・授業方法・総合評価は、「コンピュータ演習Ⅱ」4.1・4.2・4.2・4.2、「地球と環境」、4.0・4.0・3.9・4.0、「地球環境論」M 4.4・4.3・4.1・4.5、「地球環境論」N 4.3・4.3・4.1・4.4 「理科」3.3・4.1・4.1・4.3・4.2、「生物と環境」4.0・3.9・3.9・4.1 地球と環境が昨年度に比べアップした。	
・研究活動	
研究テーマ：離島の社会性ハチ類の分布・生態調査	
研究テーマの現状：3月は竹富島・小浜島、5月に波照間島のオキナワチビアシナガバチ等の調査を行なった。8月には 新潟県妙高市の火打山周辺でマルハナバチ類・ホオナガスズメバチ類の調査を行った。	
専門領域：	
本年度の研究業績：	
テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ なし ）	
<研究テーマ： >	
学会発表（ 0回） 学術論文（ 0編） 著書（ 0冊）	
・社会的活動等	
20150517	兵庫県生物学会に参加
20150606	「ホテル探検隊」「しぜんとあそぼう2015-②」 講師 のあそびクラブ・あさひ児童館
20150613	「ホテル観察の夕べ」 講師 宝塚市自然保護協会 宝塚市少年自然の家
20150726	「カブトムシ・クワガタムシ観察会」（しぜんとあそぼう2015-③） 講師 のあそびクラブ・あさひ児童館
20150808	明石川の生き物展 のあそびクラブ 桜が丘夏祭り
20150809	明石川の生物調査（しぜんとあそぼう2015-4） 講師 のあそびクラブ・あさひ児童館
20150821	「桜が丘周辺の生きものたち」 講演 あさひ児童館

20150903	六甲幼稚園 講演会 講師
20150904	育英幼稚園 講演会 講師
20150908	北六甲幼稚園 講演会 講師
20150909	六甲藤原台幼稚園 講演会 講師
20150910	ときわ幼稚園 講演会 講師
20151018	「不思議発見ウォーキング」 スタッフ・講師 宝塚市自然保護協会 武田尾溪谷
20151114	「松尾湿原の保全と紅葉の里山で遊ぼう」講師 宝塚市自然保護協会 宝塚市少年自然の家
20160227	「森で活動しよう」キノコの櫓木作り キーナの森 学生3名参加
20160326～29	日本昆虫学会第76回大会に参加
次年度の課題	
<p>2月27日の「森で活動しよう」で久しぶりに学生の参加があった。少しずつ観察会や自然体験プログラムへの参加学生を増やしていきたい。また、明石海峡公園内での自然体験プログラムでも学生の参加を募りスタッフとして活動してもらいたい。</p> <p>エコツーリズム発祥の地コスタリカでエコツーリズムを体験し、社会性昆虫および擬態昆虫の調査を行いたい。</p>	

教員名	牛頭 哲宏	所属学科	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	就職委員・臨地実習委員・問題作成委員・教職支援センター委員・国際交流センター委員				
クラス担任	4年生Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	初期演習 (E1) 基礎実習 I (E1) 小学校基礎実習 (E2) 教科指導法国語 (E3) 生活とことば (E3) 小学校実習 (E3) 保育実践演習 (E3) 海外研修 (E3) 卒業研究 (E4) 課題別実習 (E4) 教職実践演習 (E4) キャリア基礎 (01) アカデミックライティング (M1)				
担当科目コマ数	8.9				
本年度の課題					
小学校教員養成課程の講義の充実と実践 学生が興味・関心をもち意欲的に学ぶことのできる展開と内容					
本年度の目標・方針					
教科指導法（国語）や実習指導を通して小学校教員養成教育の充実を図る 文章表現や口頭表現について、より良い表現力を身に付ける授業の充実					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容 ・教科指導法（国語）や実習指導を通して、小学校実習において力を発揮出来る学生の育成に努めた。 ・時事問題を題材に選び、学生の関心や意欲を喚起しながら、より					

<p>本年度の目標・方針</p> <p>学長室長として、学内諸機関と連携し、学内教学マネジメント改革の推進を図るとともに、完成年度を迎える教育学部こども教育学科の運営が滞りなく進むよう尽力する。</p>
<p>主な活動内容</p> <p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>学長のガバナンス体制の構築をサポートすべく学長室会議を開催し、学科横断的な教学マネジメント改革の検討、イノベーション機構との連携に関与した。学科内活動においては、本年度完成年度を迎えたため、カリキュラムの見直し、新たに導入するコース制に関する検討を行った。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>・教育活動</p> <p>本年度も、小希望者（教員採用試験受験予定者）に配慮した授業を実施した。それゆえ昨年度同様、保の希望者にとって、学習意欲関心を喚起しにくいものになったことが想像できる。法令や教育用語について理解することに重点を置き授業を行った。昨年度の反省を生かし、講義の重要項目やテスト範囲を丁寧に告示するなど学生がテストに臨みやすい体制は整えた。</p> <p>また本年度は最終評価の方法を明確化し、学生に説明を行った。学生の理解度を図るための中間テスト（形成的評価）も実施し、授業のキーワードとなる用語を説明する教材を配布するなど学生が教育内容を整理しやすい工夫は行った。来年度も継続実施する予定である。</p> <p>・研究活動</p> <p>研究テーマ：J. デューイの探究・経験の理論の教育的意義について</p> <p>研究テーマの現状：</p> <p>PBLやサービラーニングといった経験学習の導入が、学生の思考力の向上にどのようにつながるかといった研究を行った。来年度成果を論文で発表する。</p> <p>専門領域：教育学、教育哲学、教育方法</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>【学会発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2年目幼稚園教諭の教師力の成長」（共同） <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブ・ラーニング（PBL型授業）の展開—ジョン・デューイの教育理論を基礎として—」（単著）FERI 未来教育研究所紀要第3集 ・「知のネットワーク成長モデル」（共著）神戸常盤大学紀要第9号 ・「2年目幼稚園教諭の職能形成をはかる研究者のかかわりについて」（共著）神戸常盤大学紀要第9号

専門領域：英米文学、英語教育 本年度の研究業績：単著 The imaginative approach as a conceptual basis for elementary foreign language teacher education テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ） <研究テーマ： > 学会発表（ 回） 学術論文（ 1 編） 著書（ 冊） ・社会的活動等 コンソーシアム兵庫学生交流委員会への参加
次年度の課題 ・研究内容を担当授業に反映し、授業の充実を図る ・収集したデータを分析し、学会発表を行い、論文にまとめる

教員名	柳原 利佳子	所属学科	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員，自己点検・評価委員				
クラス担任	4年A組	クラブ顧問	なし		
担当科目名	教育心理学，保育の心理学，発達心理学B，保育実践演習，こころの理解（E），卒業研究，こころの理解（N），生涯発達論（O）				
担当科目コマ数	8.9				
本年度の課題	1期生が卒業に向けて，履修に関するミスがないよう指導する。ゼミ運営を円滑に進める。研究を進める。				
本年度の目標・方針	・教務委員として，見通しをもった履修指導をする。				
主な活動内容	a. 目標達成に向けた活動内容 1期生の卒業年を迎え，カリキュラムが漸く一通り登場することになった，最終学年開講の選択必修科目が多い学科であるため，途中で勝手に履修を止めようとした学生，履修したものの勘違いにより出席していない学生などが数名出てきたが，事前に連絡を受けて履修指導できた。（達成度1） ゼミについては人数が少ないにも関わらず，就職活動を考慮し個別指導形態で進めたところ，学生のモチベーションを高めることができず，苦慮することが多かった。今年度の学生は卒業してしまったが，次年度に向けては，個別指導と集団指導のメリハリをつけて進めたい，（達成度3） 研究については出来なかった。（達成度4） 以上より，今回の達成度評価を「3あまりできなかった」とする。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった				

<p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 保育の心理学について、新しい先生とのオムニバスであったが、事前に連絡を取り合っていたものの、うまくできない部分もあった。卒業研究については、今年度の学生は卒業してしまっていたが、次年度に向けては、個別指導と集団指導のメリハリをつけて進めたい、クラス担任・教務委員として、面接・指導などの機会を利用し、学生理解に努めた。 ・研究活動 研究テーマ：女子青年のSexuality形成に関する要因 研究テーマの現状：上級資格である女性の健康とワーク・ライフ・バランス推進員資格を取得した。卒業後の就職に向けてのイメージだけではなく、将来展望をもったライフコースの構築のためにできる情報提供の仕方を検討している。 専門領域：発達心理学 本年度の研究業績：なし ・社会的活動等 <ul style="list-style-type: none"> ・神戸松蔭女子学院大学，武庫川女子大学，神戸大学へ出講。 ・「臨床歯科Ⅲ」（7/10（金）3～4限の授業の中で市民救命士のインストラクターとして参加した。
<p>次年度の課題</p> <p>新カリキュラムで迎える新入生が大学生活に馴染めるようにサポートする。 卒業研究ゼミでは個別指導と集団指導のメリハリをつけて進めたい、</p>

教員名	松尾寛子	所属学科	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員 ハラスメント防止対策委員				
クラス担任	1年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	乳児保育Ⅰ、保育所実習Ⅰ、保育所実習指導Ⅰ、保育所実習Ⅱ、保育所実習指導Ⅱ、障害児の理解と援助Ⅰ、障害児の理解と援助Ⅱ、卒業研究、基礎実習Ⅰ、基礎実習Ⅱ、保育実践演習				
担当科目コマ数	11.3				
本年度の課題	<p>初めての4年生が誕生するため、卒業研究指導も始まる。どこかに偏ることが無いように、研究活動は精選したうえで行っていく。</p> <p>学生にも丁寧に関わり、障害児保育に関連する社会的活動にも参画していきたい。</p>				
本年度の目標・方針	教育・研究活動・学内業務・社会的活動をバランスよく取り組む。				
主な活動内容	a. 目標達成に向けた活動内容 教育・研究活動についてはゼミ等において学生へ細やかな指導ができるように個別指				

導の時間を多くとる。学内業務についてはもっと積極的に取り組む。社会的活動については徐々に活動範囲が広がっていきつつあると感じているが、盤石なものにするためには、一つひとつ丁寧に組み込んでいく。

目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 教員としての主な活動内容

・教育活動

教育活動については、4年生の卒業研究がスタートし、学生との個別の指導に多くの時間を費やした。特に後期は授業担当科目が多く、時間の捻出に苦労した。

ゼミ学生自身も意識が高い学生が多く、提出などの督促は必要なかったため、中身についての指導に労力を費やすことができた。

・研究活動

研究テーマ：

- ① 子どものあそびを支える環境と保育
- ② 自閉症を呈する女性に対する社会性を伸ばすセラピーについて

研究テーマの現状：

2つのテーマは昨年度からの引き続きであったが、加えて保幼小接続期についての研究をスタートさせるために科研費の応募を行った。科研費採択されるために、予備調査が必要であると感じているため、接続期についての研究を早急にスタートさせなければならないと感じている。

専門領域：保育学・教育学

本年度の研究業績：

テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）
<研究テーマ： >
学会発表（ 0回） 学術論文（ 0編） 著書（ 3冊）

・社会的活動等

- ・兵庫県立網干高等学校（模擬授業）講師
- ・西脇市就学前教育・保育カリキュラム策定部会副部長
- ・西脇市幼保交流研修講演会講師
- ・西脇市幼保交流研修ワークショップ講師
- ・八尾市私立保育所巡回指導担当
- ・兵庫県保育連絡協議会第1回研修会実行委員
- ・兵庫県立三木北高等学校（模擬授業）講師
- ・明石市公立保育所年齢別研修会講師
- ・西脇こども園保育指導

次年度の課題

社会的活動については、昨年度以上に多くなることが予想される。学内業務については今まで以上に責任を持って取り組みたい。また一つ一つ丁寧かつスピーディに行っていきたい。

研究活動については、足を止めることなく、保幼小接続期についての調査を開始したい。

教員名	國崎大恩	所属学科	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試広報委員、FD委員、KTU大学研究開発センター委員、教職支援センター委員、臨地実習委員、将来構想委員				
クラス担任	1年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	「生涯学習論」「法と教育」「教職実践演習」「卒業研究」				
担当科目コマ数	2.9				
本年度の課題	着任年度における今後の教育研究活動にむけた土台作り				
本年度の目標・方針	本年度は着任年度にあたるため、本学における今後の教育活動・研究活動が充実したものとなるよう様々な取り組みに積極的にに関わり、次年度以降の成果へと結びつけていく。				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>本年度の目標達成にむけて、主に以下のような活動を行った。</p> <p>【教育活動】</p> <p>①学外の先生とも連携しながら、専門的かつ実践的な授業内容の開発を行った。</p> <p>②教員採用試験にむけて、正課外でも教員採用試験対策講座を行った。</p> <p>【研究活動】</p> <p>①科研の「研究活動スタート支援」に応募し、採択された。</p> <p>②国内外の研究者とフィールドワークを行うことで、共同研究の体制を整えた。</p> <p>【その他】</p> <p>①入試広報委員会をはじめとした委員会活動に積極的に取り組み、本学における大学運営の方法を身につけた。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>・教育活動</p> <p>①授業改善の一環として、専門に関する授業内容をより実践的なものとし、また学生が理解しやすいものとするため、学外の先生と連携しながら授業内容の開発を行った。</p> <p>②教員採用試験にむけて、正課内の指導だけでなく正課外においても指導を行った。</p> <p>・研究活動</p> <p>研究テーマ：「ポストモダン以後の教育思想史研究における新たな方法論の確立」</p> <p>研究テーマの現状：</p> <p>これまでの文献研究の成果をふまえ、本年度はフィールドワークを行った。具体的には、学習論の再考にむけた教育実践の動態的分析を行うべく授業研究を国内外で実施した。</p> <p>専門領域：教育哲学、教育思想史、歴史的な教育人間学</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）</p>				

<p><研究テーマ:教育実践をめぐる関係性の動的記述と教育実践リフレクションモデルの構築></p> <p>学会発表 (2回) 学術論文 (1編) 著書 (冊)</p> <p>・社会的活動等</p> <p>兵庫県下の高校で模擬授業を実施した。</p>
<p>次年度の課題</p> <p>本年度に行った研究活動を論文としてまとめ発表するとともに、生涯にわたる職能成長を支える教育活動となるよう授業改善等を行っていきたい。</p>

教員名	桐村 豪文	所属学科	教育イノベーション機構 ／こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員会、IR室、FD委員会、研究倫理委員会、危機管理(災害)委員会				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	教育行政学、日本国憲法、教育社会学、キャリア基礎				
担当科目コマ数	6.4				
本年度の課題	<p>着任1年目で、神戸常盤大学の全体像を把握できていないため、まずその把握から始める必要がある。</p>				
本年度の目標・方針	<p>(1) こども教育学科教員の一員として、教員採用試験合格者を増やすよう、最大限の支援を行うこと</p> <p>(2) 教育イノベーション機構の一員として、大学改革の方向性を明確化すること</p>				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>(1) 教職支援センターと連携し、自主学習会を開催し、数学・理科を中心に、教員採用試験対策を行った。</p> <p>(2) 平成27年12月以降、中田康夫、高松邦彦、野田育宏、伴仲謙欣諸氏と協力して、教学マネジメント改革のための企画書を作成し、学長室、各学科会議等に上程するに至った。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>・教育活動</p> <p>正課の教育活動としては、上記授業科目を担当した。</p>				

<p>準正課の教育活動としては、教員採用試験に向けて、数学・理科を中心に学習会を担当した。</p> <p>・研究活動 研究テーマ：教育とエビデンス 研究テーマの現状：11月21日に関西教育行政学会にて研究報告を行った。 3月末に日本教育行政学会に論文の投稿を行った。</p> <p>専門領域： 本年度の研究業績： 学会発表（1回） 学術論文（2編） 著書（0冊）</p> <p>・社会的活動等 11月、12月に開催された震災学修ツーリズム（石巻工業高校、石巻高校）のワークショップに参加。</p>
<p>次年度の課題</p> <p>(1) 教員採用試験合格者を十分に確保するため、最大限の支援を行う (2) 1月以降進み始めた教学マネジメント改革をさらに推進するため、必要なタスクを遂行していく必要がある。</p>

教員名	近藤みづき	所属学科	こども教育学科 教育イノベーション機構	職名	助教
委嘱委員・職務	学生委員会、自己点検・評価委員会、神戸常盤大学健康保健センター委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	硬式テニス部・ダンス部		
担当科目名	キャリア基礎（MNEO）、キャリア入門、健康スポーツⅠ・Ⅱ、体育Ⅰ・Ⅱ、保育実践演習、保育教育内容研究D（こどもの運動学）、健康スポーツ科学（0）				
担当科目コマ数	10.8				
本年度の課題					
・教育、研究、学務を支障なく進めること。					
本年度の目標・方針					
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が主体となる授業が展開できるよう努める。 ・研究成果を学会発表し、論文にまとめる。 ・教育改革を推進する。 					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内</p> <p>研究成果を論文にまとめることができた。本学テーマ別研究費の助成を受け、研究を進めた。教育改革を推進するため議論を重ねた。学生が主体となる授業の展開を試みたが、うまくいった授業とそうでない授業があった。</p>					

目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった
b. 教員としての主な活動内容
<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動：演習や実技の様子を撮影した映像と共に振り返る時間を設ける等、学生の運動指導力の向上のために工夫した。また、演習科目では、知的好奇心を刺激するために、小さな課題を毎回出したが、きちんとする学生とそうでない学生のバラつきがあった。課題の内容を再度工夫する必要があると考える。学生を進路別のグループに分けて、授業を進めたことで学生のニーズに適した内容が展開できたと感じている。 ・研究活動
研究テーマ：こどもの身体知
研究テーマの現状：データを分析中
専門領域：スポーツ運動学
本年度の研究業績：
テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ） <研究テーマ：幼児の運動発達における身体知に関する研究> 学会発表（ 0 回） 学術論文（ 2 編） 著書（ 0 冊）
<ul style="list-style-type: none"> ・社会的活動等
甲南大学非常講師「基礎体育学演習」 ときわキッズクラブ指導「ボールで遊ぼう」
次年度の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・教育、研究、学務を支障なく進める。 ・今年度から担当する科目を、滞りなく指導する。

教員名	戸川晃子	所属学科	こども教育学科	職名	助教
委嘱委員・職務	教務委員、地域交流センター委員、子育て支援センター ねん 運営委員、就職委員、				
クラス担任	2年Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	音楽AⅠ、音楽AⅡ、音楽AⅢ、保育・教育内容研究E、保育・教育内容研究F、保育内容（リズム表現）、キャリアの基礎Ⅲ、キャリアプロデュース				
担当科目コマ数	13.0				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・一期生の就職サポート ・限られた時間、環境の中での研究遂行 				
本年度の目標・方針	<ul style="list-style-type: none"> ・一期生がそれぞれの希望の就職先に決まるようにサポートする ・今年度の研究計画を進める 				
主な活動内容					

4. 短期大学部 口腔保健学科

教員名	野村 慶雄	所属学科	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学科長、口腔保健研究センター長、短期大学部歯科診療所責任者、第三者認証評価委員、研究倫理委員会委員、判定部会委員、高大連携委員、問題作成委員（社会人論文）				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	口腔衛生学概論、病原微生物学・免疫学、臨床歯科I、臨床歯科II、海外研修、地域口腔保健支援実習 I、健康科学総論（看護学科）、慢性病看護論（看護学科）、こどもの歯と健康（こども教育学科）				
担当科目コマ数	6.6				
本年度の課題					
① 新採用教員4名と学科運営を確実に行う ② 平成28年度カリキュラム改正を実現する ③ 学内・外部の研究資金を獲得し、教員の業績（論文・学会発表）を蓄積する					
本年度の目標・方針					
① 平成22年度に改正した現行カリキュラムの見直しを行う ② 各種対策で新生の早期退学を減少させる ③ 研究・論文作成のための環境整備を行う					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容 ① カリキュラム検討小委員会を定期的に開催し、現カリキュラムの問題点・改善点を検討し、平成28年度からのカリキュラム改正を決定した。 ② 定期的な学科教授会（月1回）を開催し、学科会議において各種提案を行い堅実な学科運営に努めた。 ③ 前期に教養ゼミ（グループ制）を開催し、その結果、早期退学者を2名に留めることができた。また、新生には「学びのしおり」を配布し学習支援を行った。 ④ テーマ別研究（1件採択）、科学研究費（2件採択：内1件は継続）。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
b. 教員としての主な活動内容 ・教育活動 ① 前年度学生の授業評価の結果を踏まえ、学生の理解度を上げるための対策（小テストの実施）を講じるとともに中間調査を行い授業方法など改善した。 ② 歯科基礎分野の定期試験不合格者への補習授業実施 ③ 国家試験対策の特別講義（口腔衛生学概論、生化学、口腔の構造、病理学、病原微生物学・免疫学、臨床歯科I、臨床歯科II、臨床歯科IV、臨床歯科V）を担当した。 ④ 隣地実習（保護者参加型実習）における指導					
・研究活動					

研究テーマ： 歯周病と糖尿病の関わり
 研究テーマの現状： 歯周病と糖尿病の関わりに関する文献的考察

専門領域：歯周病態学、糖尿病学
 本年度の研究業績：
 テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）
 <研究テーマ：歯科衛生士の需要予測に関する検討 >
 学会発表（ 2 回） 学術論文（ 1 編） 著書（ 冊）
 ・社会的活動等
 ① 長田区の口腔保健啓発事業
 ② 口腔疾患と全身疾患のかかわりに関する啓発事業

次年度の課題
 ① 学科運営を円滑に且つ確実に行う
 ② 教育イノベーション機構の基幹教育に基づく教養分野のカリキュラム検討
 ③ 学内・外部の研究資金を獲得し、教員の業績（論文・学会発表）を蓄積する

必要があればご記入下さい（1 頁以内でお願いします）。

活動内容の補足
 社会的活動等
 1. 長田区の口腔保健啓発事業
 ① 長田区こどものむし歯予防のための検討会議（平成 27 年 9 月）
 ② TOKIWA 健康フェア 2015 の歯科検診
 2. 口腔疾患と全身疾患のかかわりに関する啓発事業
 ① 姫路市歯科医師会館学術講演（姫路市）
 ② 金沢市医師会学術講演会（金沢市）

教員名	原 久美子	所属学科	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	図書紀要委員会・副委員長，ハラスメント防止対策委員会・委員，臨床実習委員会・委員長，カリキュラム検討小委員会・副委員長，				
クラス担任	3 年主担任・Bクラス担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	口腔衛生学概論，歯科保健指導論，歯科衛生ケアプロセス論，予防と歯科衛生ケアプロセスⅡ，う蝕予防の実践Ⅱ，歯科衛生ケアプロセスの実践，地域口腔保健支援実習Ⅱ，診療補助実習Ⅰ，口腔保健衛生学実習Ⅰ，口腔保健衛生学実習Ⅱ				
担当科目コマ数	11.0				
本年度の課題					
本年度の目標・方針					

主な活動内容
<p>a. 目標達成に向けた活動内容 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動・・・講義科目においては、PTTの文字を大きくし、後ろからでも見えるように工夫した。また、グループワークや調べ学習を行い、それらを発表させ、自己評価・他者評価をすることで学びを深めさせた。臨地実習委員会では実習に臨む学生への指導・運用を行い、キャリア支援課に指導を頂いて、ワクチン接種・抗体検査の体制整備を行った。 ・研究活動・・・研究テーマ：唾液腺機能の賦活，口腔機能の維持向上 研究テーマの現状：学科発表および継続的にデータ収集中 <p>専門領域：口腔保健 本年度の研究業績： その他の外部資金 「文部科学省 平成27年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業 タイプ2『地域発展』 8,809千円」 学会発表（ 3 回） 学術論文（ 2 編） 著書（分担：1冊）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的活動等 講演活動・・・台北医科大学歯学部歯科衛生学科講義，神戸常盤大学公開講座，高大連携講義，他職種研修会講師 委員・・・日本歯科衛生学会企画委員会副委員長，日本歯科医療福祉学会評議員，日本口腔ケア学会評議員，口腔ケア研究会ひろしま副代表，「歯科衛生士用語辞典」編集委員，日本健康体力栄養学会評議員，日本老年歯科医学会歯科衛生士関連委員会委員
次年度の課題
<p>学生が知的好奇心を抱き、自分で考える力を養う授業方法を検討する。</p>

教員名	足立 了平	所属学科	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	KTU研究開発推進センター長、健康保健センター健康管理室員、自己点検評価会委員、危機管理（災害）委員会委員、遺伝子組換え実験安全委員会委員、利益相反委員会委員、発明委員会委員、就職委員会委員				
クラス担任	なし		クラブ顧問	なし	
担当科目名	医療安全、健康科学総論、臨床歯科Ⅲ、臨床検査学、健康科学総論（看護学科）、人体のふしぎ（こども教育学科）、災害援助と救急医療、災害時の歯科衛生士の働き				
担当科目コマ数	6.0				
本年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生参加型の授業になっていない⇒アクティブラーニングの積極的導入 2. 学生の授業外学習時間が少ない⇒マナバを利用した事前学習の仕掛け 3. 阪神・淡路大震災20年の総括ができていない⇒震災研究の総まとめ 				

本年度の目標・方針
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への学生参加型アクティブラーニングの積極的に導入する 2. manabaを利用した事前学習の仕掛けを推進する 3. 震災研究の総括を行い公表する
主な活動内容
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生参加型授業の構築に向けて、manabaの機能を利用した授業ないアンケートやチャット型意見交換などを試行した。 2. 学生の授業外学習時間を増やすために事前学習を義務付けたが、小テストを実施する科目のみ僅かに時間が増えた。能動的な学習を引き出すことはできなかった。 3. 震災に関するまとめは完成していないが、神戸市主催の <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 授業内容の改善：ほぼすべての担当授業で、授業に使用する配布資料、授業後の振り返り用資料をmanabaにアップした。授業開始直後には、事前に配信していたその日の授業の要点10項目をテスト形式で聞いた。 ▶ 歯科衛生士向けの歯科用語辞典の作成：他大学の教員と協働で作成中 ・研究活動 <p>研究テーマ：①災害関連死抑制のための医療福祉連携 ②オーラルフレイル</p> <p>研究テーマの現状：研究時間、研究費のほとんどをこのテーマに費やしている</p> <p>専門領域：全身管理学（歯科麻酔学、口腔外科学）、社会系歯学（災害歯科医学ほか）</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（企業から奨学寄付金2件）</p> <p><研究テーマ：①歯・口腔からのアプローチによる認知症の症状緩和 ②アパタイト吹付け不織布の口腔清掃作用に関する研究></p> <p>学会発表（共同 2回） 学術論文（分担 2編） 著書（分担 3冊） 今日の治療指針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的活動等 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ときわ病院歯科・歯科口腔外科部長 ▶ 兵庫県病院歯科医会会長 ▶ 全国自治体病院協議会歯科アドバイザー ▶ 兵庫県 8020 運動推進委員会委員として「歯と口腔の健康づくり」に参画 ▶ 神戸市看護大学大学院、神戸市シルバーカレッジ、兵庫県いなみ野学園にて口腔ケアの啓発講義を担当 ▶ 長田区在宅医療推進協議会災害対策部会委員 ▶ 兵庫県保険医新聞のコラム（燭心）を担当 ▶ 講演活動は 29 回（東京～高知）、ラジオ出演 1 回、新聞掲載 3 回
次年度の課題

- | |
|------------------------------|
| 1. 授業への学生参加型アクティブラーニングの積極的導入 |
| 2. 授業外学習時間を確保するための仕掛け推進 |
| 3. 認知症患者への口腔からのアプローチに関する研究遂行 |

教員名	上原 弘美	所属学科	口腔保健学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試広報委員会副委員長・合否判定部会短大部委員長・高大連携委員・就職委員会委員長				
クラス担任	1年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助論、アシスタントワークⅢ、口腔保健衛生学概論、ベッドサイドの口腔ケア法、臨床歯科Ⅲ、医療安全、臨床検査学、歯科衛生ケアプロセスの実践、診療補助実習Ⅱ、総合歯科実習				
担当科目コマ数	9.1				
本年度の課題					
・学生の学力を引き出す授業方法の検討					
本年度の目標・方針					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を整理し、学生の積極的参加による授業の組み立てとする。 ・学内授業と臨地実習との継続性・連続性を意識した授業内容とすることで、学習効果を高める 					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>学生が学んだことを相互に発表させるなど、学生が主体的に授業に参加できるような授業形態を取り入れた。臨地実習の目的を授業で学修した内容に沿って組立てることで学生の学びは深まったと思う。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <p>「診療補助実習Ⅱ（臨地実習）」では、実習中に自己の課題を見つけ、実習後に課題レポートを作成・提出させた。3年次後期の「歯科衛生士ケアプロセスの実践」ではそのレポートを使用し、授業をおこなった。臨地実習で得た知識を学生間で共有することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動 <p>研究テーマ：全身疾患と口腔衛生管理 研究テーマの現状：情報・資料の収集中 専門領域：周術期口腔衛生管理 本年度の研究業績： テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金 <研究テーマ：> 学会発表（ 1 回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）</p>					

<ul style="list-style-type: none"> 社会的活動等 <ul style="list-style-type: none"> 公益社団法人兵庫県歯科衛生士会 会長 ① (公社) 大阪府歯科衛生士会学術研修会講演 2015. 10. 4 ② 兵庫県立西播磨総合リハビリテーション病院口腔ケア研修講師 2016. 2. 23 <p>【非常勤講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> 神戸市看護大学大学院「慢性病ヘルスアセスメント」 兵庫県立総合衛生学院看護学科全日制・定時制「老年援助論演習－口腔ケア」 兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科「口腔保健管理Ⅶ」
<p>今後の課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内容の精度を高める 研究のための時間の確保 教員としての活動と社会的活動(歯科衛生士会会長)とのバランスのとれた活動を心がける

教員名	金久弥生	所属学科	口腔保健学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	FD委員会(副委員長)・学生委員会(委員)・口腔保健研究センター運営委員会(委員)・臨地実習委員会(委員)				
クラス担任	2年A組担任	クラブ顧問			
担当科目名	臨床歯科Ⅰ・臨床歯科Ⅱ・歯科保健指導論・予防と歯科衛生ケアプロセスⅠ・歯科衛生ケアプロセスの実践・オーラルリハビリテーション・口腔保健衛生学概論・口腔保健衛生学実習Ⅰ・口腔保健衛生学実習Ⅱ・地域口腔保健支援実習Ⅱ・診療補助実習Ⅰ・歯科衛生士リカレント教育キャリアアッププログラム(口腔機能管理コース)				
担当科目コマ数	9.5				
本年度の課題	H27年4月着任のため、本学の運営方針やルールを理解、および担当授業科目の遂行・国家試験受験者合格率の例年確保、委員会活動等の遂行。				
本年度の目標・方針	担当授業および委員会活動を最低限例年と遜色のない遂行を実施する。 国家試験受験者高確率の例年確保。				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>本学の運営方針やルールを理解するため、学科教員より指導を受けながら学科運営遂行に従事し、委員会活動に関しても委員長に指導を受けながら活動を行った。また、担当授業(演習・実習)および臨地実習については、昨年までの内容を把握したうえで、担当教員間での打ち合わせをもとに授業・演習内容・臨地実習内容を検討し実施した。</p>				

目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった

b. 教員としての主な活動内容

・教育活動

上記担当科目の遂行、3年生後期の国試対策授業における講師、国家試験模擬試験の対応、新入生のチューター制、など。

・研究活動

研究テーマ：高齢者の歯科医療・介護のニーズとダイヤモンドについて

研究テーマの現状：高齢者においては咀嚼嚥下機能の低下に注意して歯科的介入を行う必要性が高く、特に体重低下の認められる者については積極的な咀嚼嚥下機能回復を図るための介入を行う必要があると考える。

専門領域：

本年度の研究業績：

テーマ別研究・ジョイント研究・**科研**・その他の外部資金（ ）

<研究テーマ：高齢者の歯科医療・介護のニーズとダイヤモンドに対応した新規の在宅サービスの開発>

学会発表（ 6回） 学術論文（ 3編） 著書（ 5冊）

・社会的活動等

【講演等】

- 口腔ケアセミナー「-感染対策から一步先を目指す！-実践！口腔ケア」 講師. 医学の友社. 札幌市ー
- リハ栄養フォーラム2015 コーディネータ（札幌、名古屋、岡山、東京、福岡、山形、金沢、大阪会場）
- Transdisciplinary approach of oral care for the elderly requiring long-term care. Symposium 3：Oral care for persons with disabilities. The 2015 general assembly meeting and academic conference of Taiwan Association for Disabilities and Oral Health.

【学会等】

- 一般社団法人 日本老年歯科医学会：代議員、他職種連携委員会委員
- 日本歯科衛生学会：編集委員
- 日本歯科衛生教育学会：評議員
- 一般社団法人 日本静脈経腸栄養学会：学術評議員
- 日本リハビリテーション栄養研究会：副会長

【認定】

- 一般社団法人 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会：認定士 第120060号
- 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（摂食・嚥下リハビリテーション分野）第1103063号
- 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（老年歯科分野）第1152023号
- 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（在宅療養指導（口腔機能管理）分野）第1402123号
- 全国歯科衛生士教育協議会：認定歯科衛生士専任教員 第480号

次年度の課題
<p>委員会としては、FD委員会副委員長を昨年に引き続き担当する。また、H28年度は新たに0科の就職委員会副委員長を担当するため、活動方針等を理解し最低限昨年度と遜色のない遂行を実施する。その他の委員会については、委員としての務めを十分に果たせるよう尽力する。</p> <p>担当授業科目は2年目になるため、学生アンケートからの指摘事項（スライドの文字が小さいなど）に対応した授業実施を行うとともに、国家試験受験合格率が例年確保できることもより意識した授業進行に努める。</p>

教員名	福田昌代	所属学科	口腔保健学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員会委員・国家試験対策委員会委員長・臨地実習委員会委員				
クラス担任	2年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科予防処置論・チェアサイドの口腔ケア法・歯周疾患予防の実践・う蝕予防の実践Ⅰ・歯科衛生ケアプロセスの実践・地域口腔保健支援実習Ⅰ他臨地実習科目巡回担当				
担当科目コマ数	13.4				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> 引き続き国家試験対策委員長として、国家試験に全員が合格できるように取り組む。 2年生担任として、臨地実習に向かう学生の支援を行う。 研究論文の投稿、学会発表 自己の研鑽（学位修得に向けて） 					
本年度の目標・方針					
<ul style="list-style-type: none"> 国家試験合格100% 学生の自己学修の支援 継続している研究成果の発表と新しい研究の構築 より良い授業内容の工夫、資料の工夫 					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p><国家試験対策></p> <p>国家試験対策委員会にて目標を設定し、学科教員にも周知徹底することで、学科をあげて100%合格に導くために取り組んだ。また、学科会議等で現状を報告し国家試験対策の問題点を早期に発見・解決できるように行動した。学生の個別学習状況に応じた支援として、必要に応じて個別面談を実施し学修を促した。</p> <p><研究></p> <p>医療英語に関する学生アンケートをまとめ、学会で発表した。来年度投稿する予定で準備中である。</p> <p><授業></p> <p>来年度にむけて、授業資料を見直し、予習復習しやすい資料となるように改善した。</p>					

<p>その成果については来年度検証する。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <p>授業評価は平均4.6であった。来年度に向けて授業資料の見直しを図り、より学生にわかりやすい資料提示ができるように変更している。実習科目については振り返りシートを導入し自分の学習成果の確認と評価ならびに成長の記録となるように使用する予定である。歯科衛生ケアプロセスの実践をオムニバスで担当することになり、前期の地域口腔保健支援実習Ⅰの保護者参加型実習の内容と歯科衛生過程を結びつけ、より現場に沿った授業展開を構築できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動 <p>研究テーマ：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①インドネシア・バリ島における歯科医療の実態調査 ②専門英語教育にグループ制作を取り入れることの学修効果 ③地域在住高齢者における口腔機能向上プログラム効果と口腔機能および体力との関連性 <p>研究テーマの現状：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①2015年日本歯科衛生学会第10回学術大会で第4報を発表(共同演者)引き続き第11回学術大会で第5報を発表予定 ②2015年日本歯科衛生教育学会で発表、2016年度の学会誌に論文を投稿予定 ③科研費採択に伴い分担研究者として4年間研究を行う。 <p>専門領域：歯科衛生士教育，海外の歯科医療</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研(分担研究者)・その他の外部資金)</p> <p><研究テーマ： ></p> <p>学会発表（ 2回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的活動等 <p>日本歯科衛生教育学会評議員</p> <p>高大連携明石西高校「基礎看護」講義担当、長田区にこやか講座～健口のすすめ～講師</p>
<p>次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策委員長として受験者全員合格できるように取り組む。学生が自己学修できる環境を整える。 ・研究論文の投稿 ・日本の高齢者と台湾の高齢者の口腔機能等の比較縦断研究の実施 ・自己研鑽

教員名	御代出 三津子	所属学科	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	学生委員・就職副委員長・学生相談室委員・口腔保健研究センター委員				
クラス担任	1年生Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	う蝕予防の実践Ⅰ・歯周疾患予防の実践・予防と歯科衛生ケアプロセスⅡ・アシスタントワークⅡ・総合歯科実習・地域口腔保健支援実習Ⅰ				
担当科目コマ数	12.0				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科診療所の利用者数を増やすための新たな活動を考える。 ・ 地域に出て、歯と口腔に関心を持ってもらえる活動を行う。 ・ こどもから高齢者までライフステージに合わせた歯科保健指導を行うことができる場面を考える。 					
本年度の目標・方針					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科診療所の昨年の利用者が392名だったので、今年こそは400名以上にする。 ・ 子育て支援センター「えん」の月1回の指導対象者が乳児中心になっているので、1人1人に合った指導が必要と思われる。面接を重視して進める。 ・ 蓮池サービスへは2か月に1回、歯科保健指導に行っているが、対象者に対して食事を通して、咀嚼の重要性を知ってもらう。 					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>新入生の歯科検診も3年目を向えた。毎年歯科健診時にむし歯がなくても、少し歯肉炎になっていたり、清掃が不十分な学生には歯科診療所を受診するように勧めてきた。新入生の受診は初年度は65名、昨年は83名、本年は24名の利用に留まった。</p> <p>平成27年度は本学の学生にポータルで定期的に案内を送り、歯科診療所の利用を勧めたが結果は昨年の学生利用が145名で本年度は111名だった。</p> <p>「えん」での指導対象者は乳児が中心となり、口腔内にそんなに大きな問題点が起こっていない年齢でもあり、相談に訪れる親子は減少している。個別指導に力を入れてきたが、平均1回の相談日に訪れる親子は5組程度であった。</p> <p>「蓮池サービス」では、対象者が11名で、本年は個人の食事内容を調査することにし、各自で食べた内容を書き出してもらい、栄養バランスが取れているか？不足の栄養素はないか？確認しながら、一人一人の栄養バランスを調べて、個別指導を行った。うち2人には改善は見られた。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>・ 教育活動</p> <p>主に学生の歯科衛生士として必要な技術面の指導を行っている。スケーラーを2mm幅で動かし、しかも歯牙の曲面に沿った操作を要求される。真面目に取り組んでいるがデリケートな操作を習得するには各自大変な様子がうかがえる。技術を身につけるためには努力が大切だが、学生各自のレベルに合わせた指導を心がけてきた。</p> <p>個人的な感想ではあるが手先を使うことに慣れていない学生が多いように思う。</p>					

・研究活動

研究テーマ：「歯科衛生士法の改正に向けての一考察」

研究テーマの現状：歯科衛生士法の一部改正がなされても、実際のところ歯科衛生士の業務はほとんど変わらない。

現状は歯科医師のいない、病院、高齢者施設などに歯科衛生士が常勤で勤務している現実の方が先を進んでいる。法律の改正よりも、実情が医科にとっても口腔ケアの必要性が理解されていて、歯科衛生士の配置が進んでしまったのでは、法律に違反していると言われかねない。

このためには歯科衛生士法の業務内容の改正が必要になる。医科と歯科の分野で業務ができるようにこれからの社会状況にあった内容を考えていかなければならないと考える。しかも急ぐ必要があると思う。

専門領域：歯科衛生士業務

本年度の研究業績：

テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）
<研究テーマ： >

・社会的活動等

- 丹波篠山支部研修会「スケーリング実習」 2015. 4. 26
- 「むし歯予防とフッ素について」～フッ化物洗口法を始める前に～
ときわ幼稚園 2015. 4. 21
- 阪神西支部研修会「スケーリング実習」基礎編 2015. 4. 24
- 「歯の健康教室」 ペンギンサークル 2015. 6. 9
- 「歯の健康について」 ときわ幼稚園 2015. 6. 30
- 「口腔ケアと嚥下障害」 大阪府介護情報研修事業 2015. 10. 13
- 丹波篠山支部研修会「スケーリング実習」 2015. 11. 15
- 介護予防プログラム「口腔機能向上」蓮池ディサービス（蓮池小学校）
2015. 5. 19 7. 28 9. 8 11. 10 2016. 1. 12 3. 8

次年度の課題

神戸常盤大学短期大学部 歯科診療所は平成25年度の利用者数が327名で26年度は392名、そして本年度は365名だった。新入生の歯科診療所利用もなかなか増えてこない。

どこに問題があるのか？考える必要がある。その上で利用者を増やす策を実施していきたい。「蓮池ディサービス」への事業は平成28年10月で終了予定であるので、お口でしっかり食事ができるよう伝えていきたい。

平成28年度は新たな取り組みを実施してみたいと考えている。

<p>＜研究テーマ：歯科衛生士養成校における「口腔機能管理計画・アセスメント票」を用いて高齢者施設臨地実習を行った場合の教育効果＞</p> <p>学会発表（ 1回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>・社会的活動等</p> <p>①第11期長田区まちづくり会議委員（にこやか部会）</p> <p>②太成学院歯科衛生専門学校 非常勤講師 「高齢者歯科学」</p> <p>③「口腔清掃法」ステップハウス宝塚 職員研修会 2015. 8. 27</p> <p>④「訪問歯科ガイドランス」兵庫県歯科医師会 2015. 10. 18</p> <p>⑤「入院患者さんへの口腔ケアの必要性・方法について」宝塚磯病院 職員研修会 2016. 2. 4</p> <p>⑥「口腔ケア研修」兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター 2016. 2. 23</p>
<p>次年度の課題</p> <p>・研究活動 今年度発表した内容を論文にまとめる。</p> <p>超高齢社会に対応できる歯科衛生士を養成するために、在学中に修得すべき項目および効果的な教育方法についてさらに検討を重ねる。</p> <p>・教育活動 学生の自ら学ぶ姿勢を引き出す働きかけをする。学生個々の状態を見極めた指導を行う。学生の観察力を高める。</p>

教員名	高藤 真理	所属学科	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教育イノベーション機構、広報紙編集委員会、神戸常盤大学短期大学部 歯科診療所				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	予防と歯科衛生ケアプロセスⅠ、アシスタントワークⅡ、歯科医療と経済、災害援助と救急医療、災害時の歯科衛生士の働き				
担当科目コマ数	11.4				
本年度の課題	・学科と教育イノベーション機構とのバランス				
本年度の目標・方針	・担当科目の教授内容・方法の見直し ・研究の展開とまとめ				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>・担当科目の教授内容・方法の精査を行い、次年度に反映させた</p> <p>・研究の展開・まとめとして、学会発表を行った</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>・教育活動</p> <p>担当科目において授業評価以外に、「学生の理解・取り組み姿勢・受講後の変化」につい</p>				

て、評価を継続して実施している。経年の変化と併せ、担当科目（内容・教授方法）の精査資料の1つとし、次年度の授業計画を立てた。

・研究活動

研究テーマ：摂食・嚥下障害、歯科医療マネジメント、歯科からの禁煙支援、災害時における歯科衛生士の役割、歯科における災害教育

研究テーマの現状：

- ・歯科衛生士養成校の災害教育取り組みの現状調査を実施
- ・障害者歯科医療施設の災害・防災対策の現状調査を実施
- ・障害者歯科医療施設利用者とその関係者の災害・防災意識に関する調査を実施

専門領域：

社会歯科学

本年度の研究業績：

テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）

<研究テーマ： >

学会発表（ 1 回） 学術論文（ 編） 著書（ 1 冊）

・社会的活動等

<執筆>

- ・東山書房『健康教室』 「災害時の口腔保健の重要性～学校教育の役割～」 （2015. 11）

<社会活動>

- ・東日本大震災被災地支援活動 岩手県陸前高田市、上閉伊郡大槌町（2015. 7. 3～5）
- ・ラジオ関西「寺谷一紀と！い・しょく・じゅう！ “医療を知ろう”」 『歯科衛生士による被災地と災害時の支援』（2015. 11. 12）

<講演・講義>

- ・「災害時の口腔保健の重要性」神戸常盤女子高等学校育友会講演会（2015. 5. 22）
- ・「口腔ケアの重要性について」総合リハビリテーションセンター自立生活訓練センター教養講座（2015. 6. 25）
- ・「キャリア教育」兵庫県歯科衛生士会卒後研修必修プログラム（2015. 7. 19）
- ・「災害時支援と日常診療」第 7 回関西障害者歯科臨床研究会研究集会シンポジスト（2015. 9. 13）

<学会発表>

- ・第10回日本歯科衛生学会「災害関連死予防のための避難所支援を考える～震災を経験した地域の現状をてがかりに～」（2015. 9. 21～22）

<その他>

- ・関西オーラルマネジメント研究会 世話人
- ・保険医協会兵庫連絡会 世話人

次年度の課題

- ・担当科目の教授内容と教授方法の見直しの継続
- ・研究のまとめ
- ・担当科目および研究に関する研修、聴講の機会を増やす

教員名	大川直美	所属学科	口腔保健	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員、国家試験対策委員、臨地実習委員、就職委員、神戸常盤ボランティアセンター委員				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	予防と歯科衛生ケアプロセスⅠ、予防と歯科衛生ケアプロセスⅡ、ボランティアの理論と実践、う蝕予防の実践Ⅱ、口腔保健衛生学概論、地域口腔保健支援実習Ⅰ、地域口腔保健支援実習Ⅱ、診療補助実習Ⅰ、口腔保健衛生学実習Ⅰ				
担当科目コマ数	11.3				
本年度の課題	調査結果のまとめと研究フィールドの開拓。				
本年度の目標・方針	アンケート調査と歯科健診結果を、学会発表と論文に出来るようまとめる。				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究については、平成26年度神戸常盤大学テーマ別研究に採択され実施した、地域で就労支援を受けながら生活する精神障害者の口腔状態と課題を明らかにするためのアンケート調査と歯科健診結果をまとめ、第23回日本介護福祉学会大会と神戸常盤学術フォーラムで発表を行った。 <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育活動 <ul style="list-style-type: none"> 「学生が主体的に学ぶ」事を考えながら授業の進め方を考えた。取り組みの1つとして、授業時にその日の振り返りが出来る内容の課題を出し、manabaを使ってやり取りをする事で、学生が考えまとめる習慣がつけられるよう試みた。 研究活動 <p>研究テーマ：精神障害者の歯科的現状と課題に関する研究</p> <p>研究テーマの現状：アンケート調査の結果を分析し、まとめた。それをもとに学会発表を行ったが、学術論文にまとめて投稿する作業を終えることができなかった。</p> <p>専門領域：ケアマネジメント、スーパービジョン、専門職教育</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）</p> <p><研究テーマ：地域で生活する精神障害者の歯科的現状と課題></p> <p>学会発表（ 2回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>・社会的活動等</p> <p><ボランティア活動></p> <ul style="list-style-type: none"> 学生と共に、「長田っ子祭り」での口腔啓発活動、2015年10月 				

<ul style="list-style-type: none"> ・学生と共に、長田神社前商店街「おやつはべつばら」イベントでの口腔啓発活動 2015年10月
<p><講演></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動支援センター長田「お口を健康に！」2015年10月31日
<p><委員等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人兵庫県歯科衛生士会会員管理委員 ・長田区ユニバーサルデザイン研究会委員 ・NPO法人すまみらい「絵本を通じた教育機関へのこころの病に関する啓発事業」 実行委員 ・長田区障害者自立支援センター「つどう部会」委員 ・長田区自立支援協議会防災プロジェクト委員
<p>次年度の課題</p> <p>次年度にむけ、精神障害者だけでなく、広く障害を持った方々の口腔状況と課題を探るための調査を行うため、本学テーマ別研究に応募する準備を行った。それだけでなく、学外の様々な助成金を通して、研究を推進し、明らかになった歯科臨床の課題を、教育内容にも取り入れていきたい。</p>

教員名	破魔 幸枝	所属学科	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	入試広報委員会委員、地域交流センター委員会委員、臨地実習委員会委員				
クラス担任	3年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	アシスタントワークⅡ、チェアサイドの口腔ケア、アシスタントワークⅠ、歯周疾患予防の実践、ベッドサイドの口腔ケア、総合歯科実習				
担当科目コマ数	12.2				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教授方法の工夫 ・研究分野のフィールド調査 				
本年度の目標・方針	<ul style="list-style-type: none"> ・常に本学科の理念・ポリシーを意識し、学生を指導する。 ・研究方略の研鑽に努め、研究テーマを再検討し、調査へ移行する。 				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当科目の教授内容について、再認識を図る。 ・研究テーマの見直しを図る。 <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <p>学習方略の見直しを図り、事前準備を心掛けた。資料の配布にも力を入れたが、学生への</p>				

<p>提示が難しく、効果が期待できるほどではなかった。技術の習得においては、試験前の練習環境を整えることで、意識も高まり、学生自ら練習を願い出るなど努力の姿勢がみられるようになった。</p> <p>・研究活動</p> <p>研究テーマ：教育における自己肯定感への影響や効果</p> <p>研究テーマの現状：研究データの分析</p> <p>専門領域：教育心理学</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）</p> <p>＜研究テーマ：「チーム医療におけるオーラルヘルスプロモーター育成プログラム構築の検討」/連携研究者＞</p> <p>学会発表（ ）回 学術論文（ ）編 著書（ ）冊</p> <p>・社会的活動等</p> <p>文化庁伝統文化親子教室事業 西宮絵本読み聞かせ講座 講師アシスタント</p>
<p>次年度の課題</p> <p>・教授方法の工夫</p> <p>・研究分野のフィールド調査</p> <p>・研究デザインの完成</p>

教員名	東 麻夢可	所属学科	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	広報誌編集委員会、国家試験対策委員会、国際交流センター 委員				
クラス担任	1年Aクラス担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	アシスタントワークⅡ、アシスタントワークⅢ、チェアサイドの口腔ケア法、予防と歯科衛生ケアプロセスⅡ、地域口腔保健支援実習Ⅱ、口腔保健衛生学実習Ⅱ				
担当科目コマ数	12.1				
本年度の課題	赴任初年度のため、無し。				
本年度の目標・方針	教育活動：円滑な学内実習運営のサポート 研究活動：学会発表および論文作成に向けた研究の継続				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>教育活動：円滑な学内実習運営のため、複数の実習を通しての学生の理解と情報共有に努めた。</p> <p>研究活動：研究のまとめとして学会でのポスター発表を行った。現在、論文作成に向けて研究継続のための準備を行っている。</p>				

目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった

b. 教員としての主な活動内容

- ・教育活動

主要3科目すべての学内実習に関わることで、それぞれの実習における学生の状況を把握し、情報を共有することで、円滑な学内実習の運営に活かすことができた。

- ・研究活動

研究テーマ：豆とばしにおける豆の飛距離に影響を与える口腔機能の検討
 研究テーマの現状：第 回日本歯科衛生学会学術大会にてポスター発表および研究討論会への参加。現在、研究継続のための研究資金獲得に向けて準備中。

専門領域：

本年度の研究業績：

テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）

<研究テーマ： >

学会発表（ 1 回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）

- ・社会的活動等

①TOKIWA 健康フェア お口のはたらきチェックコーナーにて口腔機能の評価（測定）および学生ボランティアのサポート 2015. 10. 11

②「こうべ歯と口の健康づくりプラン」推進事業イベント ポートライナージャック（学生ボランティアのサポート） 2015. 11. 1

③神戸常盤大学公開講座 「口の元気は体も元気！」 講師：原先生 実習サポート 2016. 3. 17

次年度の課題

教育活動：実習内容の見直し、充実化、学生の自ら学ぶ姿勢を引き出すための工夫
 委員会活動：国家試験100%合格に向けての学習支援、国際交流に関する新規事業への取り組み、学生主体の活動のサポート、円滑な学生の就職活動の支援
 研究活動：研究資金獲得および論文作成に向けた研究継続、学会参加による情報収集

教員名	濱 清華	所属学科	口腔保健学科	職名	助手
委嘱委員・職務	地域交流センター委員、国家試験対策委員、就職委員、				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	アシスタントワークⅠ・Ⅱ・Ⅲ チェアサイドの口腔ケア法 歯周疾患予防の実践 う蝕予防の実践Ⅰ				
担当科目コマ数	16.8				
本年度の課題					

5. 短期大学部 看護学科通信制課程

教員名	高宮洋子	所属学科	看護学科通信制課程	職名	教授
委嘱委員・職務	課程長 通信教育委員（副） 倫理委員（副） 研究倫理委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	看護学概論・看護行為論・基礎看護学演習・基礎看護学実習・看護過程演習				
担当科目コマ数	120時間				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に取り組む。 ・学修相談日の活用の拡大 ・看護学概論レポート評価基準の検討をおこなう。 					
本年度の目標・方針					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 通信制課程10年目のまとめとしての研究に取り組みまとめる。 2. 課程内の教務委員と協同し、学習の進捗に課題のある学生への働きかけを強める。 3. 学修相談日の活用。 4. 看護学概論レポートの評価基準を検討する。 					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究は「看護師2年課程通信制卒業生の現状からみた学習成果と課題」として平成27年6月に調査を実施、平成28年学会発表にむけてまとめを行う。 2) 学習の進捗に課題のある学生への学習支援活動として教務委員と連携を取り、個別指導を電話及び面接によって実施。また教務委員と共に「学習計画の見直しと学習のすすめ方」の学習会を企画実施した。 3) 学修相談日は基本的に毎週水曜日を設定することで、気軽に相談できることを目指した。金曜日の相談者は48人であった。今後相談者のその後の学修の進捗状況をふまえたフォローが必要と考える。 4) 看護学概論のレポート評価について添削指導員との意見交換を進め評価について検討した。 <p>目標達成度の評価:1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <ul style="list-style-type: none"> レポート添削指導；看護学概論、看護行為論、基礎看護学演習、看護過程演習 スクーリング：基礎看護学実習スクーリングの実施（本学3回、京都1回） 学修支援活動：看護学概論レポート作成のための勉強会の実施、病原微生物・免疫学特別講義の企画、学修相談日の企画実施、電話による学修支援。 ・研究活動 <p>研究テーマ：2年課程通信制卒業生の現状からみた学習成果と課題」</p> <p>研究テーマの現状：発表にむけての準備中。</p>					

教員名	中野 順子	所属学科	看護学科通信制課程	職名	准教授
委嘱委員・職務	国際交流センター委員、個人情報保護委員、危機管理（災害）委員 臨地実習委員会委員長、				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	看護教育指導技術（オムニバス）、看護管理、看護マネジメント				
担当科目コマ数	授業時間数 180時間				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・学会への論文投稿と学会発表への取り組み ・担当科目の授業展開への取り組みと実習スクーリングにおける授業の工夫 					
本年度の目標・方針					
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の質・安全学会への論文投稿と学会発表実施に向けての取り組み ・看護教育指導技術の講義の取り組みと看護マネジメント実習後対面授業の工夫の実施 					
主な活動内容					
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学紀要投稿掲載。学会への論文投稿は次年度も引き続き取り組む。 ・日本看護学会学術集会－看護管理－で示説発表、学内フォーラムで口頭発表実施。 ・講義資料の一部修正を加え学生に分かり易い工夫をした。実習後対面授業ではグループ形成に役立つ手法（ゲーム）を加え実施し、目標達成に向け取り組んだ。 <p>目標達成度の評価:1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・看護教育指導技術では教育内容を習得し、授業を受け持った。 ・看護マネジメント実習後の授業の実施。受講生157名、36施設のまとめを行った。 ・看護管理、看護マネジメント演習レポートの添削指導の実施。 ・国際交流センター委員として、ネパール研修生のホームステイ、文化交流の支援。 ・研究活動 <p>研究テーマ：中小病院における看護師のヒヤリ・ハット体験の実態調査 研究テーマの現状：平成28年度科研費（基盤C）申請中 専門領域：看護マネジメント（医療安全管理に関する分野） 本年度の研究業績： テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（学会発表-看護管理-） ＜研究テーマ：短期大学通信制課程の学生が就業する施設におけるヒヤリ・ハット体験の実態 学会発表（1回） 学術論文（1編） 著書（ 冊） ・社会的活動等 国境なき医師団、ユニセフ、マンスリーサポート</p>					
次年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き学会への論文投稿と外部資金（各種財団）研究の取り組み ・担当科目（概論）の授業の取り組みと資料の工夫、実習後対面授業の授業内容の工夫 					

教員名	小坂 素子	所属学科	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	通信教育委員会、臨地実習委員会、広報誌編集委員会、ハラスメント防止対策委員会副委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	母性看護学概論、母性援助論、母性看護学演習、母性看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間210時間				
本年度の課題					
1. 他学科教員の授業を聴講する事で、専門外の教育内容を学び、教育力を深めたい。 2. 臨地実習指導者や関係者に通信制教育への理解を深めたい。					
本年度の目標・方針					
1. 自己研鑽を行い、教育力を高める。 2. 臨地実習指導者や関係者に通信制教育を理解してもらい、有効な学習環境を整える。					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容 1. 教員の資質の向上：他教員の授業聴講は統計の知識や授業の組み立て等の見直ができた。外部の講演会・研修会の参画は母性看護の現状を把握しスクーリングで活用できた。 2. 臨地の学習環境：実習依頼を通して関係者との人間関係が構築出来、学生の学び（実習目的・方法）の理解が深まり、臨地での学習環境の変化（指導方法など）が見られた。実習後の学習報告を通して関係者の通信教育への理解が深まっている。 目標達成度の評価：1. できた ②ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
b. 教員としての主な活動内容 ・教育活動：スクーリング：母性看護学概論（計4回）、母性看護学実習（計5回） レポート添削指導：母性援助論、母性看護学演習 ・研究活動 研究テーマ：在宅看護における対応困難事例、暴言、暴力の現状と対策に関する研究 研究テーマの現状：「在宅看護における対応困難事例、暴言、暴力の現状と対策に関する研究」（平成24年度科学研究費助成金：基盤研究C課題番号24593282）で、全国の訪問看護師に対する対応困難事例に関する質問紙郵送調査の実施、分析を行った。分析結果を関連学会で発表予定である 専門領域：母性看護学 本年度の研究業績： テーマ別研究・ジョイント研究・④研・その他の外部資金（ ） ＜研究テーマ：訪問看護師にとっての対応困難事例の困難要素について～テキストマイニングソフトを用いた個別面接調査の分析結果より～＞ 学会発表（ 1 回） 学術論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） ・社会的活動等					

<p>一般社団法人 兵庫県助産師会：理事（災害対策委員会、福祉・厚生委員会、表彰委員会担当）及び表彰委員会委員長兼務</p> <p>公益社団法人 日本助産師会 近畿地区研修会：研究会企画委員及び「南海トラフ地震に備えて」講演の座長</p> <p>一般社団法人 兵庫県助産師会：「南海トラフ地震など災害に備えて助産師ができること」講演の企画運営</p> <p>公益社団法人 兵庫県看護協会：「院内助産所・助産師外来開設の為の管理者及び助産師研修会」講師</p> <p>公益財団法人兵庫県健康財団：健康ひょうご21 県民運動 推進員</p> <p>姫路赤十字看護専門学校：「マタニティサイクルにある人々の看護」講師</p>
次年度の課題
<p>1. 学生が母性看護の苦手意識を軽減できる様、授業内容の工夫を考える。</p> <p>2. 自己の教育力を高めるために、他学科の聴講や研修会等に参加する。</p>

教員名	玉村 由紀	所属学科	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	入試広報委員、看護協会西部支部地区代表				
クラス担任	なし	クラブ顧問	卓球部		
担当科目名	老年看護学概論、老年援助論、老年看護学演習、老年看護学実習 災害時の歯科衛生士の働き				
担当科目コマ数	210時間 + 4コマ				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・通信制課程の学生に合う授業内容を考える ・研究に関する行動を起こす 				
本年度の目標・方針	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学概論の授業方法を検討する ・老年看護学実習の評価方法の検討をする 				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学概論の授業では、学生に配布資料を作成した。学生からの評価は前年よりは良くなった。老年看護学演習の評価を根拠に重点を置くようにした。 ・実習は、前年学生に求めるものが高過ぎ、全体的に評価が低く、頑張ったのにと不満を持つ学生もあった。今年度は、評価表の変更など評価方法を改めた。 <p>目標達成度の評価:1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動 <p>看護学概論スクーリングでは、一番理解が難しいと考える統計の数字が出る部分と制度、法律に関連する部分について資料を遣い授業を行ったが、資料の量が少なく全体の資料</p>				

2. 「在宅看護における対応困難事例、暴言、暴力の現状と対策に関する研究」(平成24年度科学研究費助成金:基盤研究C課題番号24593282)で、全国の訪問看護師に対する対応困難事例に関する質問紙郵送調査の実施、分析を行った。分析結果を関連学会で発表予定である。

目標達成度の評価:1.できた ②ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった

b. 教員としての主な活動内容

・教育活動

スクーリング:在宅看護概論、在宅看護実習

レポート添削指導:在宅援助論、在宅看護論演習

・研究活動

研究テーマは①、②である。

①「在宅看護における対応困難事例、暴言、暴力の現状と対策に関する研究」(平成24年度科学研究費助成金:基盤研究C課題番号24593282)

②「訪問看護利用者、家族による暴力の危険予知訓練プログラムの構築と実施効果の検討」(平成27年度科学研究費助成金:基盤研究C課題番号15K11573)

研究テーマの現状

①「訪問看護師にとっての対応困難事例の困難の要素について～テキストマイニングソフトを用いた個別面接調査の分析結果より～」(第17回在宅医学学会)ポスター発表を行った。また全国の訪問看護師に対する対応困難事例に関する質問紙郵送調査の実施し調査結果の分析を行った。第18回在宅医学学会で発表予定である。

②暴力防止、クレーム対応などの研修会、セミナーに参加し、プログラム構成の検討に必要な資料収集を行った。

専門領域:在宅看護学、臨床倫理

本年度の研究業績:

テーマ別研究・ジョイント研究・**科研**・その他の外部資金()

<研究テーマ: 上記に記載 >

学会発表(1回) 学術論文(0編) 著書(0冊)

・社会的活動等

柏原看護専門学校非常勤講師「哲学(生命倫理)」4時限

次年度の課題

・在宅療養者と家族への個別性に応じた援助について学生に対する指導の向上に努める。

・研究テーマへの取り組み、学会発表や論文の執筆

教員名	山岡紀子	所属学科	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	国家試験対策委員会CCN委員長、臨地実習委員会、通信教育委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	小児看護学概論、小児援助論、小児看護学演習、小児看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数 210時間				
本年度の課題					
1. 新入生は入学直後から、過年度生は早期から計画的に学習できるよう支援する。 2. 国内外で学会発表をしながら、平成27年度からの科研の研究に取り組む。					
本年度の目標・方針					
1. 小児看護学習を通して学生の意欲向上に努め、自発的・計画的学習継続につなげる。 2. データ収集・整理を継続し、経過を学会で発表する。					
主な活動内容					
a. 目標達成に向けた活動内容					
目標1: 概論スクーリングでは授業内容を更に精選し、レポート作成や学習計画のポイント説明に注力した。実習スクーリングでは、学生が苦手な看護過程と解剖生理を小児看護事例を通して具体的に教授したところ、授業後前向きな感想が得られた。学生による授業評価は、今年度も全カテゴリーにおいて学科平均を上回った。					
目標2: データ収集を継続し整理した内容を、小児保健学会と小児精神神経学会で口演発表、アジア大洋州小児神経学会と公衆衛生学会でポスター発表した。					
目標達成度の評価: 1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
b. 教員としての主な活動内容					
・教育活動					
テキスト科目: 小児援助論および小児看護学演習のレポート添削指導および事後指導					
スクーリング科目: 小児看護学概論 (春期および秋期、3会場にて4回)					
小児看護学実習 (実習スクーリング3日間×5回)					
・研究活動					
研究テーマ: 極および超低出生体重児における幼児期早期の共同注意行動の発達とその評価法の検討 (科研費基盤研究C)					
研究テーマの現状: データ収集・整理中					
専門領域: 地域看護学、小児保健					
本年度の研究業績: テーマ別研究・ジョイント研究 (科研)・その他の外部資金 (1)					
学会発表 (4回: 国内3・国外1、全て筆頭) 学術論文 (0) 著書 (0)					
・社会的活動等					
神戸市総合児童センター・神戸大学大学院保健学研究科地域連携センター「極低出生体重児とその家族のための子育て支援教室 YOYOクラブ」 (今年度16回参加)					
次年度の課題					
1. 学生が自ら「苦手」と「不安」を克服し、学修を継続できるように支援する。 2. 正・極および超低出生体重児のデータを三者間で比較・検討し、学会発表する。					